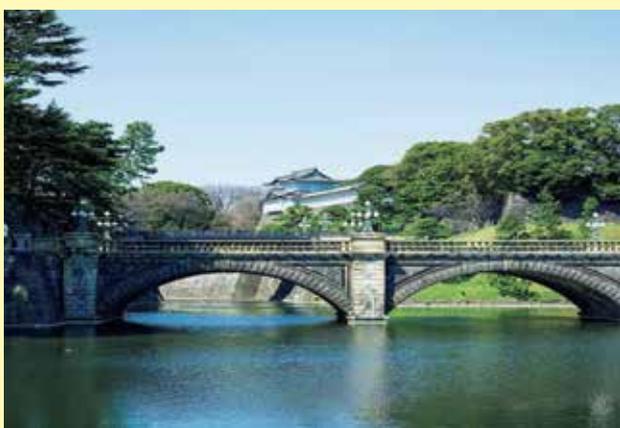


東京都小学校社会科研究会・研究補助資料

社会とつながり未来を創る子供の育成

～社会的事象の見方・考え方を働かせ、
主体的に問いを追究する学習を通して～

都小社研の授業づくり ガイドブック（第2次）



(令和5年11月9日・10日)

目次

都小社研の授業づくり1 大会主題「社会とつながり未来を創る子供の育成」をどう捉えるか？	・・・ 1
都小社研の授業づくり2 どのように教材研究をし、単元を構成していくのか？	・・・ 2
都小社研の授業づくり3 「社会的事象の見方・考え方を働かせて、主体的に問いを追究する学習」をどうつくるか？	・・・ 3
都小社研の授業づくり4 社会的事象の見方・考え方とは何か？	・・・ 7
都小社研の授業づくり5 社会的事象の見方・考え方をどのように働かせるのか？	・・・ 8
都小社研の授業づくり6 「問い」とは何か？「問い」をどのように構成したらよいか？	・・・ 10
都小社研の授業づくり7 学習問題をつかみ、解決への見通しをもつにはどうしたらよいか？	・・・ 11
都小社研の授業づくり8 なぜ問題解決的な学習過程に「つなぐ」段階が必要なのか？	・・・ 12
都小社研の授業づくり9 子供が主体的に学ぶにはどうしたらよいか？	・・・ 15
都小社研の授業づくり10 子供が対話的に学ぶにはどうしたらよいか？	・・・ 17
都小社研の授業づくり11 深い学びを実現するにはどうしたらよいか？	・・・ 18
都小社研の授業づくり12 学習評価の意義は何か？評価規準をどのように設定するか？	・・・ 19
都小社研の授業づくり13 「知識・技能」をどのように評価するのか？	・・・ 20
都小社研の授業づくり14 「思考・判断・表現」をどのように評価するのか？	・・・ 22
都小社研の授業づくり15 「主体的に学習に取り組む態度」をどのように評価するのか？	・・・ 24
都小社研の授業づくり16 GIGAスクール構想に向けて、タブレット端末をどう活用するか？	・・・ 26

大会主題「社会とつながり未来を創る子供の育成」をどう捉えるか？

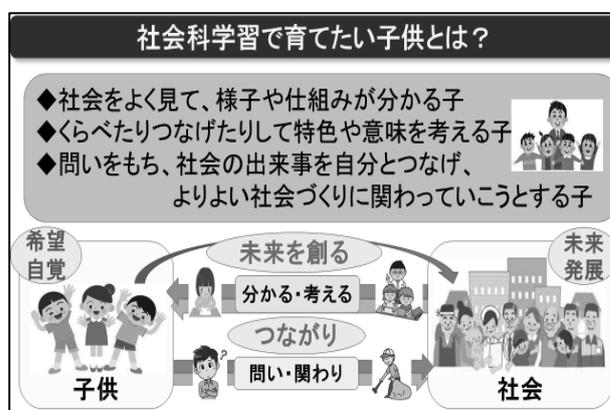
1 大会主題設定の背景は何か？

グローバル化や技術革新により急激に変化し予測困難な時代だからこそ、よりよい社会の在り方について考え続け、様々な立場の人々と協働し、その実現に向けて主体的に参画しようとする「社会とつながり未来を創る子供」を育てたい。そのためには、学習指導要領の改訂で社会科の目標に示された「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を養っていくことが必要である。

都小社研では、「社会的事象の見方・考え方を働かせながら、主体的に問いを追究する学習を通して」を副主題として、社会とのつながりを意識して社会生活の理解を深め、社会的事象の特色や相互の関連、意味を対話的に考えたり多角的に考えたりし、社会の一員として自分たちの関わり方を選択・判断したり社会の発展を考えたりして、それらの資質・能力を養っていくことが、「社会とつながり未来を創る子供の育成」につながると考えた。

2 「社会とつながり未来を創る子供」とはどういう姿か？

「社会とつながり」とは、自分と社会的事象や社会生活とのつながりから、社会的事象の特色や相互の関連、意味を理解することであり、社会の発展を願い、現実社会に見られる課題の解決を考えるなど、よりよい社会の在り方を考えていこうとすることである。また、「未来を創る」とは、現在、明日から、数年後、大人になってからの地域、日本、世界における人々と共に生きる社会を描き、その社会の一員としての生き方を考えていくことである。育てたい子供像としては、3つの資質・能力を踏まえると右図のようになる。



各学年においては、目指す子供の具体的な姿を以下のように整理している。

	学年部会が目指す子供の姿	授業の中で見られた社会とつながり未来を創る子供の姿の例
3年	自分たちの暮らす区市町村への確かな理解を基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考え、地域社会の未来を考えようとする子供の育成	「火事からくらしを守る」より：地域で起きた火災の内、全焼の件数が「0件」であることから、消防署や地域の消防団などの取組を調べたり、関係機関のつながりについて整理したりして、自分たちにできることを考える。
4年	自分たちの暮らす東京都への確かな理解を基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考え、東京都の未来を考えようとする子供の育成	「水害からくらしを守る」より：東京都の自然災害として多摩川の河川氾濫を中心に水害からくらしを守るための対処や備えについて学習した後、身近な善福寺川を事例に自分たちにできることを考える。
5年	我が国の国土や産業の確かな理解を基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考え、我が国の産業や国土の未来を考えようとする子供の育成	「情報と産業の関わり」より：コンビニエンスストア（販売業）の事例を基に、情報活用の様子や情報化社会の課題を調べ、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考える。
6年	我が国の政治、歴史、国際社会における役割の確かな理解を基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考え、我が国の未来を考えようとする子供の育成	「わたしたちの暮らしを支える政治」より：身近な放課後児童クラブの様子について調べ、区民1%の願いとその他多くの政策の実現という矛盾を通じて、市民(国民)として、よりよい政治の在り方や税金の使い方について議論し、未来における自らの政治との関わり方を考える。

このような「社会とつながり未来を創る子供」を育成するためには、学習内容が子供の生活と乖離したものにならないようにしたい。また、単元の中で社会とのつながりや人物への共感を大切にして追究したり、社会に見られる課題を把握し、未来の社会に目を向けて関わり方を選択・判断したりする指導の工夫が必要である。

都小社研では、副主題にある「社会的事象の見方・考え方を働かせながら、主体的に問いを追究する学習」が、主体的・対話的で深い学びからの授業改善そのものであると捉えている。社会的事象とのつながりに気付き、社会的事象や人々の相互のつながりを理解し、自分と社会のつながりを自覚して社会参画を考えていくことで、子供たちの社会とのつながりが広がり、未来への希望や社会の一員としての自覚をもつ子供が育っていくと考えた。

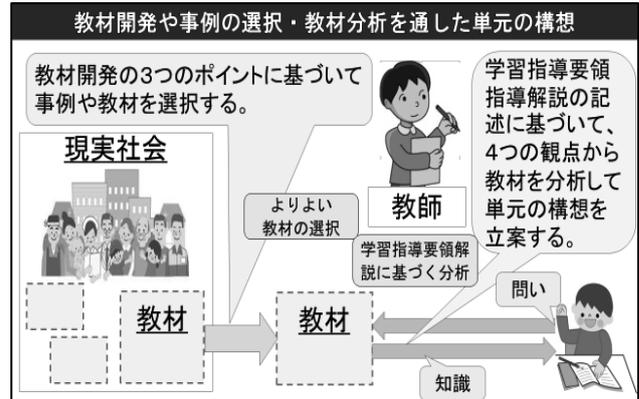
どのように教材研究をし、単元を構想していくのか？

1 事例や教材をどのようなポイントで選択するのか？

社会科の学習では、学習指導要領の目標及び内容に基づいて、指導者の立場から事例や教材を選択し、子供たちに出合わせている。

都小社研では、以下の3つを教材開発のポイントとして、東京都らしい教材の開発に努めている。

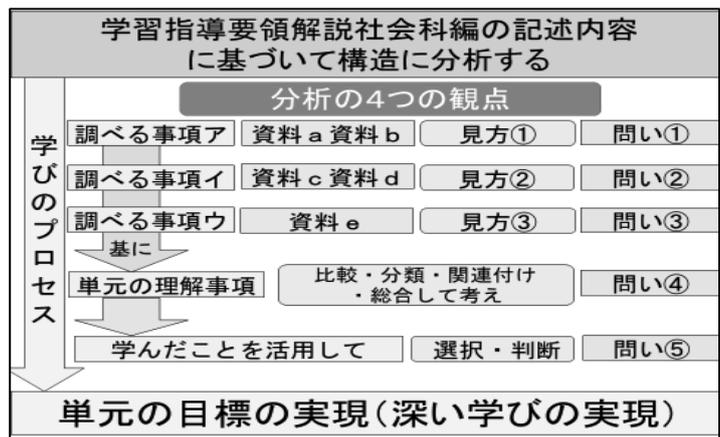
- 社会とのつながりを意識できる教材
- 東京らしさやよさを感じ、都民としての誇りがもてる教材
- 人の営みや働きに共感できる教材



2 小学校学習指導要領解説 社会編をどのように読み解き、教材分析したらよいのか？

学習指導要領解説は、学習指導要領の内容について、具体的な例示をして説明しているものである。小学校社会科の解説は、下図のように、ア：調べる事項・理解事項、イ：資料、ウ：見方、エ：問い、から記述内容を構造的に分析できる。都小社研では、上記の3つのポイントで選択した事例や教材をこのアからエの4つの観点から分析していくことにした。教材分析する際は、このアからエについて、

- ①単元の理解事項は何か。また、どのような調べる事項が必要か。
 - ②どのような社会的事象の見方・考え方を働かせて調べ考えるのか。
 - ③そのためには、どのような問いが必要か。
 - ④どのような資料や活動が必要となるのか。
 - ⑤子供が単元の学習問題をつかむためには、どのような出会いの場面の工夫が必要か。
- の手順で分析していくことにした。



3 学習指導要領解説に基づいてどのように単元を構想するのか？

上記のように教材分析をした結果を活用し、子供の学びのプロセスに即して下図のように単元を構想していく。その際、子供の主体的な学びを想定したり、社会的事象の見方・考え方を働かせる学習活動を想定したりすることで、その後作成する単元指導計画・評価計画をより確かなものにすることができると考えた。

学習過程	問 い		見方・考え方		資 料・活 動	獲 得 する 知 識
つかむ	学習問題をつかむ問い	←	着目する視点	→	資 料	調べる事項
	単元の学習問題 「○○○○○○○○○○○○○○○○」					
しらべる	調べる問い	←	着目する視点	→	資 料	調べる事項
	調べる問い	←	着目する視点	→	資 料	調べる事項
	調べる問い	←	着目する視点	→	資 料	調べる事項
まとめる	特色や意味を考える問い	←	考える方法	→	活 動	単元の理解事項
(つなぐ)	(発展を考える問い) (関わり方を考える問い)	←	着目する視点 考える方法	→	活 動	(社会的な態度)

単元で育成を目指す「社会とつながり未来を創る子供」の姿

「社会的事象の見方・考え方を働かせて、主体的に問いを追究する学習」をどうつくるか？

1 社会的事象の見方・考え方を働かせて、主体的に問いを追究する学習とは？

「社会的事象の見方・考え方を働かせ」とは、「位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係」に着目する際の視点や、「比較・分類、総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり」する思考を働かせ、社会的事象について調べ、考え、表現することである。子供が「社会的事象の見方・考え方」を働かせて学習することで、社会的事象の様子や仕組みを確かに捉え、特色や相互の関連、意味をより深く理解していくことができる。

「主体的に問いを追究する」とは、社会的事象に問題意識をもち、学習問題の追究・解決に向けて見通しをもったり、学習問題や学習計画、学習内容や学習方法を振り返ったりして、自ら学習を進めていこうとすることである。主体的な追究には自ら「問い」をもち続けていくことが大切である。具体的な事実を調べる「問い」から、社会的事象の特色や意味を考える「問い」、社会の課題やその解決方法を考える「問い」、自分たちの関わり方考える「問い」へと子供の思考に即して「問い」を構成しながら理解や考えを深めていく学習を展開する必要がある。また、子供は、社会を形成している人々の具体的な働きから対話的に学んだり友達と協働的に学び合ったりする。多角的に考えたり、学んだことを生かして自分と社会との関わりを考えたりする学習を通して、自ら学ぶ意味を自覚したり社会参画への意欲や思いを高めたりし、社会とつながり未来の社会を創る子供が育つと考える。

2 目指す子供像をどのような学習過程で育成していくのか？

都小社研では、これまでの研究成果から、基本的な問題解決的な学習過程を下図のように描いている。

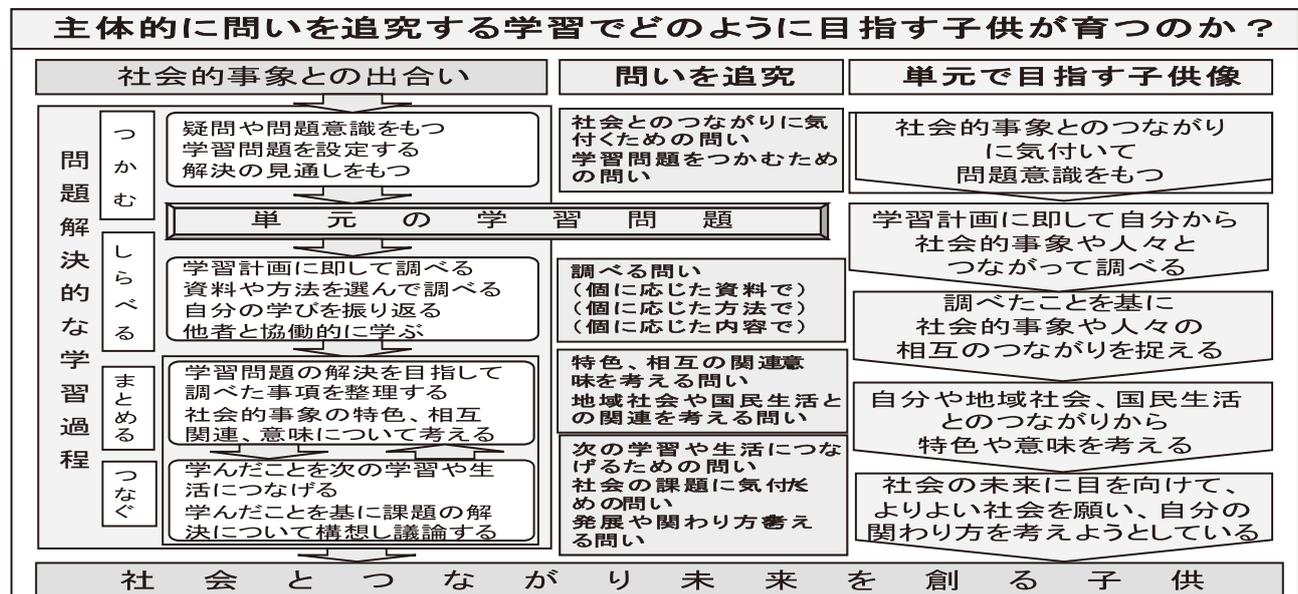
○つかむ→しらべる→まとめる→つなぐとしている。「つなぐ」段階は全ての単元で実施するのではなく、学習指導要領の内容の取扱いに発展や選択・判断の記載がある単元を中心に設定する。社会に見られる課題を把握し、学んだことを基に、その課題の解決について構想し議論していく学習を展開することを通して、社会の未来に目を向け、学んだことを未来につなぎ、よりよい社会を願い自分たちの関わり方を考えようとする子供を育てることを目的としている。

○このような問題解決的な学習を展開していくためには、学習過程ごとに、社会とのつながりを意識しながら子供が問いをもち、問いを追究していくことが重要となる。

○子供が追究する問いは、学習過程ごとに目的があることを踏まえて構成することが重要である。例えば、

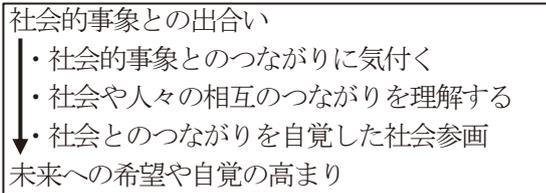
- つかむ → 学習問題をつかむ問い
- しらべる → 調べる問い
- まとめる → 特色や相互の関連、意味を考える問い
- つなぐ → 発展や関わり方考える問い

これらに加え、「社会的事象とのつながりに気付く問い」「社会の課題に気付くための問い」を設けて、社会とのつながりを意識して追究することで、下図のように目指す子供像の実現に近づくと考えた。

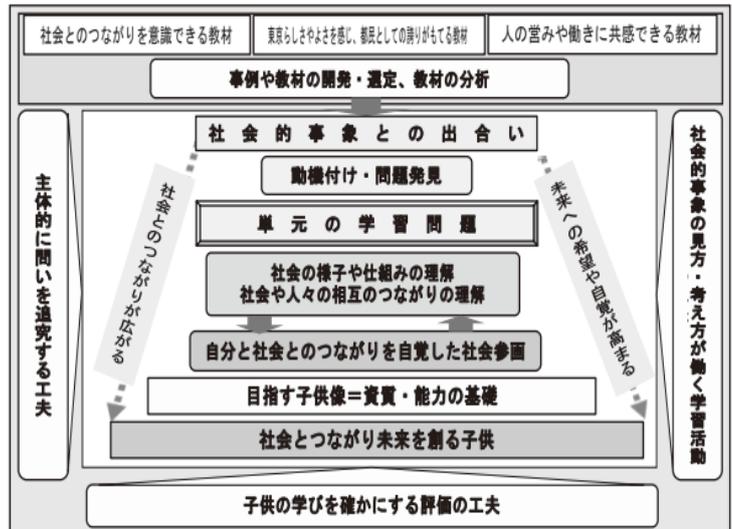


3 授業づくりに向けてどのように研究を構想しているのか？

教材や事例の選択や教材の分析を踏まえた上で、右図のように、社会的事象との出会いを工夫し、学習問題を追究・解決することを通して、社会とのつながりが広がるよう単元構想する。



その際、子供が主体的に問いを追究できるように工夫するとともに、社会的事象の見方・考え方が働く学習活動を工夫して問題解決的な学習の充実を図り、子供の学びを確かにする評価を工夫した学習にすることが重要である。



都小社研では、研究主題及び研究副主題の実現に向けて、3つの授業づくりの手だてを考え、実践している。

- 授業づくりの手だて1「主体的に問いを追究する工夫」
- 授業づくりの手だて2「社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫」
- 授業づくりの手だて3「子供の学びを確かにする評価の工夫」

4 授業づくりの手だてとして、どのようなものが考えられるか？

3つの授業づくりの手だては、単元構想段階と具体的な授業場面の2つの側面から、手だての活用効果も含めて、以下のように整理することができる。さらに、学年部会の研究実践を通して、授業づくりの手だての吟味や授業場面ごとの手だての具体例の蓄積・整理を図ってきた。

授業づくりの手だて		単元構想時	一単位時間の具体的な授業場面
【授業づくりの手だて1】 主体的に問いを追究する工夫	■問題意識が高まり問いが生まれる社会的事象との出会いの工夫	◎単元構想における学習問題設定で活用	◎社会とのつながりに気付く資料の効果的な提示 ◎問題意識や追究意欲を高める資料の効果的な提示
	■予想や学習計画立案と子供の思考に即した問いの構成の工夫	◎単元指導計画における問いの構成で活用	○学習問題・予想・学習計画などの常掲による解決への見通しの視覚化
	■調べる対象や資料、方法を子供が選んで追究する展開や学習活動の工夫	◎単元構想における「しらべる」段階で活用	◎問いや調べること、調べる方法や資料などの個やグループでの選択 ◎問いについてのまとめや次時に向けた振り返り
【授業づくりの手だて2】 社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫	■視点に着目して問いについて調べる学習活動の工夫	◎単元構想における「つかむ」・「しらべる」段階で活用	◎追究の視点を引き出す資料について読み取る学習活動や調査活動
	■比較・分類・総合・関連付けて考察する学習活動の工夫	○単元構想における「まとめる」段階で活用	◎人々の営みや働きに共感する資料や聞き取りを通して調べる活動
	■社会に見られる課題の解決や関わり方について議論し考えを高め合う学習活動の工夫	○単元構想における「つなぐ」段階で活用	◎付箋、ホワイトボード、思考ツール、タブレット端末などツールを活用した情報整理による思考活動 ◎自分の立場を明確にして討論が深まるテーマや学習活動 ◎話し合いや議論が深まる板書構成
【授業づくりの手だて3】 子供の学びを確かにする評価の工夫	■3観点による評価計画の作成	◎単元評価計画の作成で活用	◎個に応じたノート指導
	■指導と評価の一体化を図る（教師が指導に生かす）ための評価の工夫	○単元評価計画における指導に生かす評価で活用	◎問いについてのまとめを書く活動 ○常掲された学習問題・予想・学習計画とつなげた自己調整
	■子供が自分の学びを振り返り、次の学びに生かす評価活動の工夫	○単元構想や単元評価計画での活動に活用	◎学習活動の振り返りと交流活動 ◎プロジェクト型の課題設定とまとめの表現活動や振り返り ◎自己の成長や学んだことの活用についての振り返り

(1) 授業づくりの手だて1「主体的に問いを追究する工夫」の具体例

3年「安全なくらしを守る」(17時間扱い)

- ・自分たちの問いを解決するためにゲストティーチャーに話を聞いたり、考えを伝えたりする活動
 <事故や事件からくらしを守る> <火事からくらしを守る>



PTAの方に、「地域の安全をどうやって守っているのか」について、子供たちが対象者を選んで、個々に質問する。

消防団の方や地域の安全マップを作った方に、子供たちが個々に疑問を聞いたり考えたことを伝えたりする。

主体的に問いを追究するためには、地域の人々との直接の交流が有効である。地域の方々にゲストティーチャーとして授業に協力していただき、疑問や調べたいことを直接聞くことで、「人」の思いや願いについて実感的に理解したり、切実感をもったりすることができるようになる。その時に、インタビューする相手を子供自ら決めるなど、調べる対象を選べるようになるなどの学習活動の工夫が大切である。こうした学習活動を通して、社会とのつながりに気付き、問題意識を高めることができる。

(2) 授業づくりの手だて1「主体的に問いを追究する工夫」の具体例

4年「先人の働き～玉川兄弟と玉川上水の開発」(7時間扱い)

- ・「つかむ」段階で、玉川上水の資料から気付いたことを発表し合い、疑問を集約することで学習問題を見いだすとともに、学習問題を基に予想について話し合い、学習計画を設定する。

<資料の提示>

今の玉川上水の写真

400年前につくられたらしい。すごい。

江戸の人口のグラフ

江戸は、人口が増え、水不足だった。

江戸の広がり地図

井戸を掘っても塩水が混ざった。

玉川兄弟の像の写真

8か月で完成させた。どうやって？

学習問題「玉川兄弟は、どのように玉川上水をつくり、水不足を解決したのだろうか。」

<予想>

予想1：近くの川から水をひいてきたのだと思う。

予想2：機械ではなく、道具を使って人間が掘ったと思う。

予想3：人々の生活は、水が来たことで暮らしやすくなったと思う。

<問い>

問い1：玉川上水の水は、どこからどのようにひいたのだろうか。

問い2：玉川上水は、どのようにつくられたのだろうか。

問い3：玉川上水が完成し、江戸のまちはどうなったのだろうか。

「つかむ」段階では、玉川上水の資料を基に、子供が驚きや疑問を出し合い、教材への問題意識を高めることが大切である。学級全体で立てた学習問題について、予想を話し合い、予想を疑問形にすることで毎時の問いを見いだすことができるようにした。学習計画を丁寧に設定することで、主体的に学ぼうとする姿勢が見られた。

(3) 授業づくりの手だて2 「社会的象の見方・考え方が働く学習活動の工夫」 具体例

6年 歴史「戦国の世から天下統一へ」(6時間扱い)

「織田信長は、どのようにして全国を統一しようとしたのだろう」

「豊臣秀吉は、どのようにして全国を統一しようとしたのだろう」

信長の働き
(信長の政策とその意味)
: 関連の思考

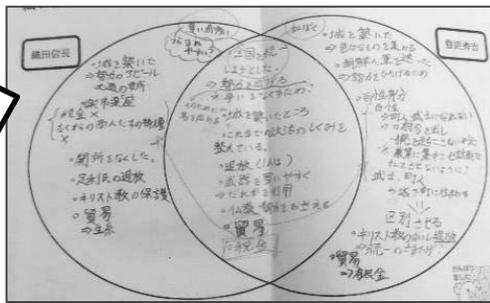
秀吉の働き
(秀吉の政策とその意味)
: 関連の思考

「全国統一をするために、どのようなことが大切だったのだろう」

信長・秀吉の政策比較

信長・秀吉の政策の共通点と相違点: 比較・分類の思考

- ・ 共通点: 武力支配、貿易
- ・ 相違点: キリスト教保護と禁止など



資料(肖像画、屏風、勢力図、年表など)の提示、思考ツール、ホワイトボードを活用した情報整理を通じて、社会的な見方・考え方を働かせて学びを深める場面が見られた。

(4) 授業づくりの手だて3 「子供の学びを確かにする評価の工夫」の具体例

〈主体的に学習に取り組む態度①の評価場面例〉 6年 歴史「国づくりへの歩み」

評価方法の工夫

小単元「国づくりへの歩み」で、3観点による評価計画に基づき、「つかむ」段階と「しらべる」段階のまとまりごとに、自らの学習状況について振り返り、「学び方カード」に記述した内容を【態一①】で評価した。

- ① 評価規準: 狩猟、採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。【態一①】
- ② 発問: 「自分の調べ方やまとめ方はどうだったか振り返ろう。」
- ③ 評価資料: 学び方カード

	身に付けたい学び方 Oできた・もうちょっとできそう ◎もっとできるようになった△うまくできなかった	振り返ろう・いかそう
つかむ	気付いたことや疑問・知りたいことを考えられた。	みんなより、自分で図や資料を読み取るのが苦手だったのて、
しらべる	気付いたことや疑問・知りたいことを話し合っ、みんなで学習問題をつかった。予想をもとに学習計画を立て、これから調べる見通しがもてた。	図から読み取るのが、今更にはなった。前回の文化を見つけた。のびのびと、それよりも早く人物を矢張りについていけるようになった。
調べる	学習計画とてらし合わせて、調べることをはっきりさせて調べた。いくつかの資料を使うなどして、ねばり強く調べた。資料からキーワードを見つけることができた。人・出来事の関係、変化が分かるようにノートに書いた。調べ方や調べたことを友だちと話し合い、確かめ合うことができた。	

図などの読み取りが苦手と課題を把握

↓

何度も繰り返して得意になる

↓

好きになったと改善

ここでは、学び方カードの記述内容から、子供は「自らの学習状況の課題を把握し、改善を図っている」と見取ることができるので「おおむね満足できる状況」(B)と判断できる。さらに、何度も繰り返し粘り強く追究する中で、自己の課題を改善していることから、自らの学習を調整できており、「主体的に学習に取り組む態度」は「十分に満足できる状況」(A)と判断できる。

「学び方カード」の活用や教師のコメントを通じて、課題を克服する姿を認めることができた。

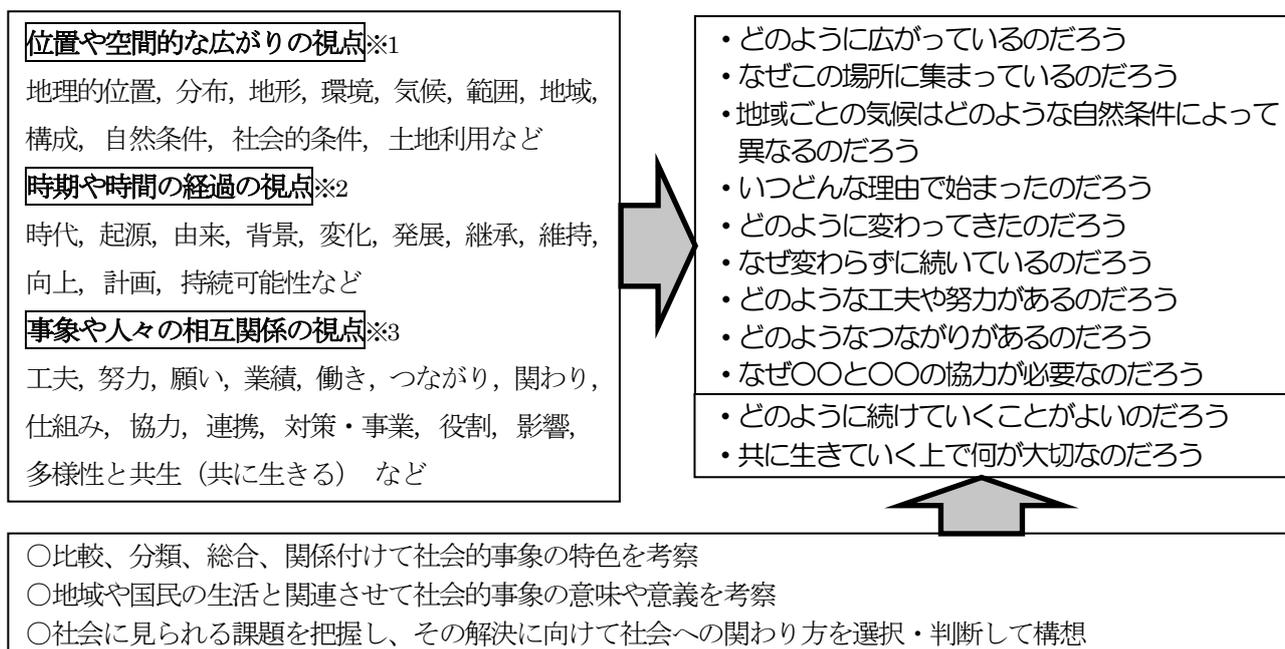
社会的事象の見方・考え方とは何か？

1 社会的事象の見方・考え方はどのように説明されているか？

「小学校学習指導要領解説編（平成29年告示）小学校社会」では、「社会的な見方・考え方」は、課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象などの意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法」であり、小学校社会科においては、「社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」であると説明されている。

2 社会的事象の見方・考え方の具体はどのように見つけることができるのか？

中央教育審議会教育課程部会社会・地理歴史・公民WGの資料では、次のように視点や方法が問いと関連付けられて示されている。



学習指導要領では、社会科については、内容のまとまりごとの記述に、着目する視点が具体的に記述されている。例えば、下の記述「**Eなどに着目して**」にある「E」が着目する視点の具体となる。

(1) Aについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のような知識や技能を身に付けること。

(ア) Bを理解すること ※内容が複数になることもある。

(イ) Cなどについて調べ、Dなどにまとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること。

(ア) **Eなどに着目して**、Fを捉え、**Gを考え**、表現すること。 ※内容が複数になることもある。

しかしながら、「**Gを考え**」には思考方法の具体がないことから、解説の中から、どのように考えるのか、比較・分類、総合、関連付けなどの考え方を使ってどのように考察・構想するのかを読み取っていく必要がある。

また、第6学年の我が国の歴史の内容のまとまりに関しては、着目する視点が、**世の中の様子、人物の働き、代表的な文化遺産**の3つに総括的にまとめて示されている。そこで、解説に示された「問い」の例から着目する視点を吟味したり、知識・技能の内容のまとまりごとに「〇〇を手掛かりに」と記述された歴史的な事象〇〇を捉える際に有効な視点を教師が時期や時間の経過の視点を中心に分析して導き出したりする必要がある。

イ 次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること。

(ア) **世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して**、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

※紙面の都合上、実践部分では、※1を「空間的な視点」、※2を「時間的な視点」、※3を「関係的な視点」と表記する場合がある。

社会的事象の見方・考え方をどのように働かせるのか？

1 社会的事象の見方・考え方を子供が働かせる学習とは？

「小学校学習指導要領解説編（平成 29 年告示）小学校社会」では、社会的事象の見方・考え方を働かせるとは、「視点や方法を用いて、社会的事象について調べ、考えたり、選択・判断したりする学び方」と示している。

- ・どのような場所にあるのか、どのように広がっているかなどと、分布、地域、範囲などを問う視点、なぜ始まったのか、どのように変わってきたのかなどと、起源、変化、継承などを問う視点、どのようなつながりがあるか、なぜこのような協力が必要かなどと、工夫、関わり、協力などを問う視点から、それぞれ問いを設定して、社会的事象について調べて、その様子や現状などを捉えることである。
- ・どのような違いや共通点があるかなどと、比較・分類したり総合したり、どのような役割を果たしているかなどと、地域の人々や国民の生活と関連付けたりする方法で、考えたり選択・判断したりすることなどである。

各教科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要であるとも説明している。

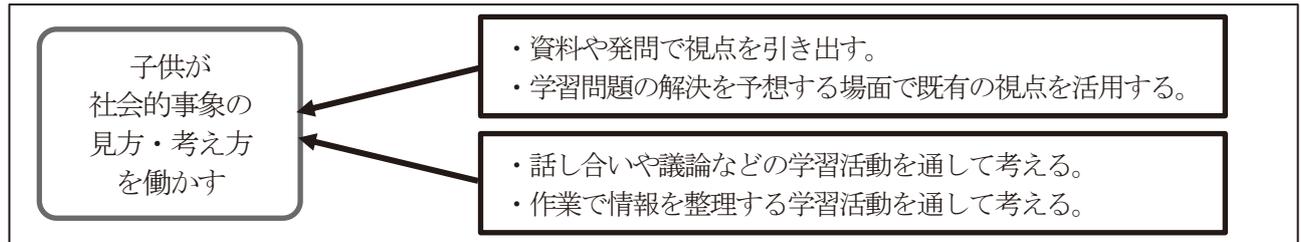
- ・小学校社会科では、総合性を重視する観点から、例えば、歴史に関わる事象であっても、時間的な経緯の他、空間的な広がりに着目すること、地理的環境に関わる事象であっても時間の経過に着目すること、現代社会の仕組みに関わる事象であっても地理的位置や始まったときや変化などに着目することなどが考えられる。また、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目するほかにも、視点は多様にあることに留意することが必要である。また、追究過程において、これらの視点を必要に応じて組み合わせるようすることも大切である。【解説 第4章1 指導計画作成上の配慮事項 p136～p137 より】

子供が社会的事象の見方・考え方を働かせ、調べ考え表現する授業を実現するためには、次のことが大切であると解説している。

- ・教師の教材研究に基づく学習問題の設定や発問の構成、地図や年表、統計資料など各種の資料の選定や効果的な活用、学んだ事象相互の関係を整理する活動などを工夫すること

2 社会的事象の見方・考え方を子供が働かせる指導のポイントは何か？

社会的事象の見方・考え方は、そのものだけを働かせるわけではなく、追究の視点に着目して、問いを追究したり視点が働くように資料を活用して調べたりする学習活動や、読み取って集めた情報を比較・分類・総合・生活と関連付けて考察・構想する学習活動を通したりして、子供が自然と働かせていくものである。



3 社会的事象の見方・考え方を子供が働かせる学習場面例

＜「つかむ」段階の例＞ 6年 世界の中の日本の役割「世界の未来と日本の役割」（7時間扱い）

1時間目 「世界ではどのような課題がおきているのだろう」

2015年と2019年のハンガーマップから

- ・アフリカに危険の赤が増えた
- ・貧困、紛争、環境破壊など

地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力に着目して

学習問題「世界の様々な課題を解決するために、日本はどのような活動をしているのだろう。」

資料（ハンガーマップ）の提示や発問の工夫を通じて、見方・考え方を働かせ、学習問題や学習計画をつくる子供の姿が見られた。

・国際連合、日本の働き？

＜「しらべる」段階の例＞6年 歴史「世界に歩み出した日本」（8時間扱い）

5時間目「世界に認められるために、日本の産業はどのように発展したのだろう。」

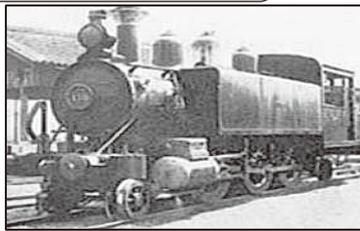


20年間で世界一になったのは、すごい。なぜだろう？



グラフ（1890年と1910年の生糸の輸出額）から、時間的な視点を働かせられるようにする。

長野や群馬の製糸工場で作られた生糸が、横浜港から欧米に輸出されている。身近な横浜線でも輸送された。



地図（工場・鉄道・港・海外）から、空間的な視点を働かせられるようにする。

我が国の国力が充実し国際的地位が向上する様子について、日本の産業（生糸の生産と輸出）に着目し、グラフや地図などの資料から、子供が時間的・空間的な視点を働かせて、学びを深められるようにする。また、全国史である6年の歴史学習において、地域教材を扱うことで歴史をより身近に感じられるようにする。

＜「まとめる」段階の例＞6年 歴史「武士の世の中」（6時間扱い）

＜「まとめる」段階＞6時間目「武士による政治を関係図にし、学習問題についての考えをまとめよう。」



「武士の世の中」の学習を振り返り、キーワードを発表しよう。

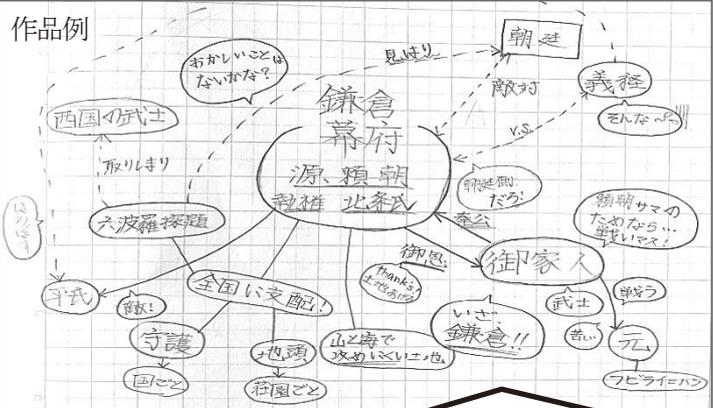
キーワード

- ・源頼朝（人物）、守護・地頭（政策）
- ・御家人、御恩と奉公（政策）
- ・北条時宗（人物）、元寇（外国）

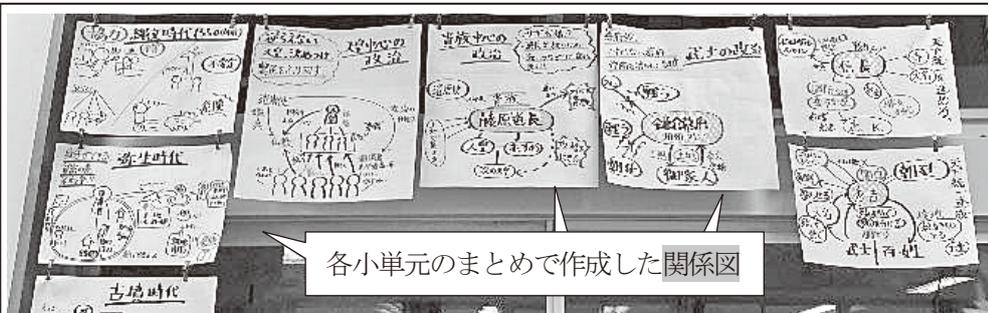


キーワードを人物・政策・国民・外国の視点から繋ぎ合わせて関係図をついたり、関係図をまとめるキャプションをついたりしよう。

キャプション「幕府と武士を結ぶ御恩と奉公」



比較・分類したり関連付けたりする方法で関係図をつくる。



各小単元のまとめで作成した関係図

政治先習に伴い、政治単元から歴史単元の各小単元を貫き、学習問題を「為政者は、どのような政治を行ったのだろう」としたり、人物・政策・国民・外国の視点で調べたことを関係図にまとめたりするようにした。

これまで学習してきたことを政策・国民・外国の視点から人物の働きに着目して関係図に整理することで、比較・分類・総合・関連付ける方法で、概念的な理解を図ることができた。

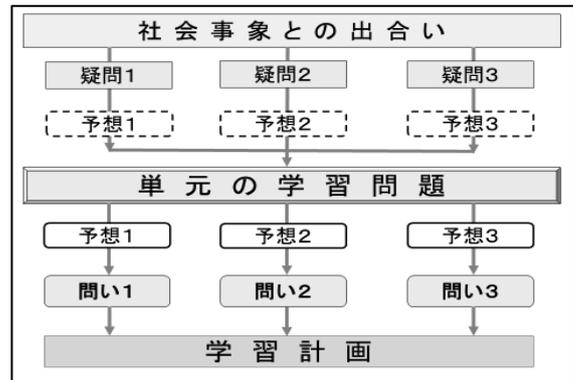
「問い」とは何か？「問い」をどのように構成したらよいか？

1 「問い」とは何か？

社会的事象の見方・考え方を働かせる社会科学習において、子供の意識を追究の活動へと向かわせるのは、具体的な問いである。学習指導要領解説では「問いとは、調べたり考えたりする事項を示唆し学習の方向を導くものであり、単元などの学習問題はもとより、子供の疑問や教師の発問などを幅広く含むものであると考えられる」と説明されている。そのため、子供たちの思考を促すためには、単元を通じて問いを構造的に検討することが求められる。都小社研では、個々の思いつきのような疑問ではなく、「～はなぜか？～を調べたい。」というように焦点化された疑問や、目標の実現に向けて焦点化してつくられた学級で追究する問いを「問い」と考える。「問い」を検討していく際には、学習のねらいや子供の思考の流れに基づいて、学習指導要領解説に示された着目する視点や考えられる問いの例などを参考にしたり、働かせたい「見方・考え方」を踏まえたりする必要がある。

2 子供が「問いをもつ」とはどのようなことか？

社会的事象との出会いを通して、子供が既存の経験や知識との「矛盾」や「ずれ」を認識し、うまく説明できない状態になったとき、子供自身が事実を確認するための「疑問」が生まれる。その疑問について子供がもっている見方・考え方に基いて推論することを通して、「これまで～だと思っていたけど、どうして～なのだろう。～に似ているから～が関係しているのかも。」というように子供が「問いをもつ」ことになると考えられる。このように子供が問いをもつためには教師による資料提示の工夫や発問の工夫などが重要となる。



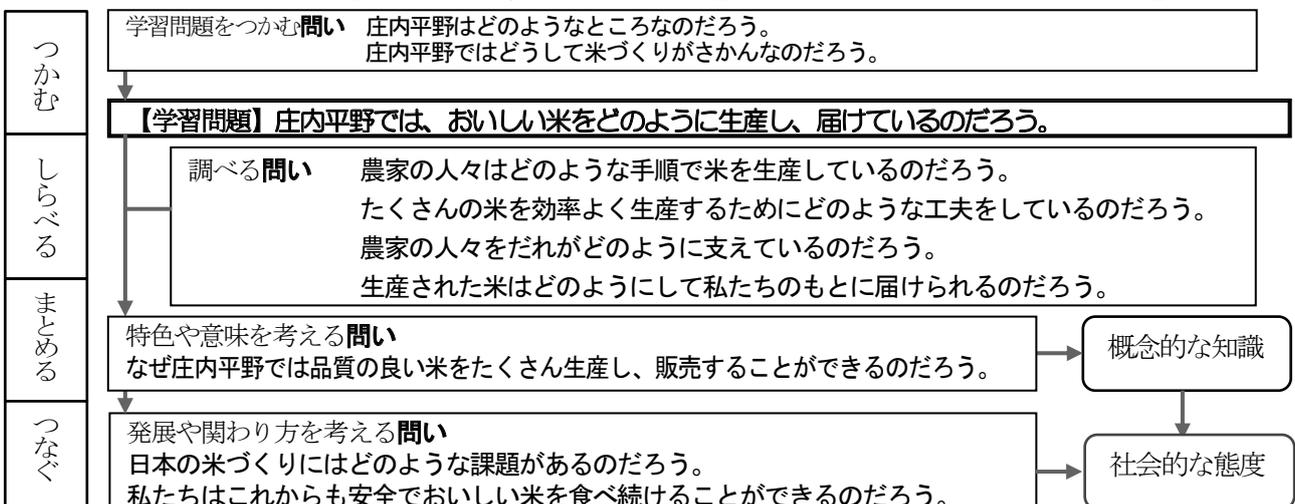
3 単元における「問い」の役割は何か？

「問い」には学習段階ごとにいくつかの役割があるものとする。都小社研では以下のように整理している。

学習過程	問いの種類	単元における問いの役割
つかむ	学習問題をつかむ問い	学習問題をつかむための事実を捉え、疑問が生まれる。
	単元の学習問題	
しらべる	調べる問い	学習問題を解決するための必要な具体的知識を獲得する。
まとめる	特色や意味を考える問い	具体的知識を比較・関連付けて特色や意味を考え、概念的知識を形成する。
つなぐ	発展や関わり方を考える問い	学習したことを基に、社会の未来に目を向け、地域や日本の発展や自分の関わり方を考え、社会への関心を高める。

4 単元において「問い」をどのように構成するのか？

上記の問いの役割と子供の思考の流れを踏まえて、学習問題を中心に必要な問いを以下のように想定する。



学習問題をつかみ、解決への見通しをもつにはどうしたらよいか？

1 単元の学習問題とは何か？学習問題をどのように設定するのか？

学習問題とは、学習指導要領の内容を実現するために示された単元を貫く学習の問題である。子供が興味・関心をもって追究したいという意欲をかき立てるものでなければならない。同時に、単元の目標を実現するために、どんな疑問を解決すればよいかを方向付けるものでなければならない。子供の興味・関心を引き出しながら、教師が責任をもって設定する必要がある。教師のねらいと子供たちの問いが一致するような学習問題づくりは、優れた教材の提示と指導力にかかっている。（廣嶋憲一郎氏「社会科授業の教材・実践・評価のアイデア」より）

学習問題は、調べたり、考えたりすることによって、次の種類に分類できる。教科書等に掲載されている学習問題例は、「どのように～か？」が多い。

What	事実を調べる	何が～？ ～は何か？
How	特色・過程・仕組みを考える	どのように～か？
Why	因果関係や理由を考える	なぜ～か？
Which	価値を選択する	どちらが～か？

学習問題の条件は以下のように整理できる。（①～④は古川清行氏「小学校社会科の新しい評価」より）

- ①「この勉強をすることはおもしろそうだ」と興味・関心を高めるもの。
- ②「この問題を解決することは価値あることだ」「必要なことだ」と切実感をもつようなもの。
- ③子供たち自身によって解決への見通しがもてるようなもの。
- ④学習が目標に方向付けられている。追究することで目標が達成できるもの。
- ⑤子供の手で学習問題について調べることができるもの。

さらに、子供たちが意欲的に主体的に学習を展開するためには、教師が、子供たちに学習問題をどうつかませるが大切である。教師による一方的な「提示」ではなく、子供にとって学習問題を追究する必要性や切実感が高まるように、教師と子供が協働して設定していくことが求められる。その際の子供が問題意識をもつ場面は以下のように整理できる。（北俊夫氏「新社会科・学習問題づくりの指導技術」より）

- ①相矛盾する複数の資料を分析することを通して。
- ②子供の考えを出させてから事実を提示し、そのズレを生かしながら。
- ③子供同士の対立する意見の違いを生かしながら。
- ④身近な具体物などと比較しながら、数量に対する驚きを生かして。
- ⑤子供の生活体験や体験的な活動を通して。
- ⑥子供の困惑、怒り、同情など、感情に訴えることによって。

2 学習問題に対する予想や学習計画を子供とどのように立てていくのか？

学習問題の解決を予想する活動では、子供たちは既存の見方・考え方を働かせ、疑問に対して予想していく。予想する活動を通して問題意識が焦点化され、解決への見通しをもつことで追究意欲を高めることになる。予想を疑問形に変換すると、毎時の問いになっていく。このように予想し学習計画を立てることで、単元展開が教師と子供の協働作品となる。予想は、学習問題を設定する前に行う場合と後に行う場合がある。

例えば、以下は3年小単元「火事からくらしを守る」における学習問題を設定した後に、その解決に向けて予想を立て学習計画につなげる学習場面である。

学習問題「火事からくらしを守るために誰が何をしているのだろう」について、子供たちは、既存の経験や知識をもとに「誰が」、「何を」を一続きで予想することで、「しらべる」段階の追究の見通しがもてる。また、学習の順番を考えることで学級の学習計画を立てることができる。

調べることや調べる方法を学級で共有し、焦点化することで主体的な追究を展開することができる。

「誰が」、「何を」

➔

- ・「消防署の人は」、「火事がおきたとき、どのような行動を」するか？
- ・「消防署の人は」、「火事がないとき、どのような仕事を」しているか？
- ・「消防団や警察などの人は」、「火事がおきたとき何を」するか？
- ・「地域や学校では」、「火事の予防に向けて何を」しているか？

なぜ問題解決的な学習過程に「つなぐ」段階が必要なのか？

1 「つなぐ」段階を設定する意義は何か？

中央教育審議会答申では、社会科、地理歴史科、公民科における教科目標は、従前の目標の趣旨を勘案して、「公民としての資質・能力」を育成することを目指し、その資質・能力の具体的な内容が「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で示された。

これを踏まえ、小学校社会科における教科の目標も大幅に変更されている。特に目標(3)は「学びに向かう力・人間性等」に関する目標として整理されており、本会の研究主題「社会とつながり未来を創る子供」と大きく関わるものであると考えた。

(3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

また、学習指導要領では、内容の取扱いに次の事項が示されている内容がどの学年にもある。

「(多角的に考えて、)～発展について考えることができるよう配慮する」

「自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるよう配慮する」

これは、上述の教科の目標(3)を実現するうえで欠かせない取扱いとなる。ここでは、社会に見られる課題を把握し、課題の解決について構想したり自らの関わり方を選択・判断したりする学習が求められている。

さらに、各学年目標の「愛情」や「自覚」を養うことにつながるものであり、平成25年全国大会で都小社研が取り組んだ研究主題「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科教育」や現在の研究主題に掲げている「社会とつながり未来を創る子供」の育成を目指す授業づくりの考え方も一致する。

子供たちは「社会とのつながり」に気付き、問題意識をもち、「社会とつながり」ながら調べ、社会生活との関連から社会的事象の意味を考えていく。このようにして学んだことを未来に「つなぐ」ことで、よりよい社会を考え、未来を創ることに興味をもち、協力できることを見いだそうとする社会的な態度を育成できると考える。

そこで、都小社研では、内容の取扱いに記述されている単元を中心に、これまでの研究成果を継続・発展させ、学習過程の「まとめる」段階のあとに「つなぐ」段階を設定し、社会の発展について考えたことや自分の関わり方について選択・判断したこととその理由について互いに説明し合ったり、議論し合ったりする学習場面を設定して問題解決的な学習の充実を図ることにした。

2 「つなぐ」段階をどの単元で設定するのか？

内容の取扱いの記述に応じて、「つなぐ」段階は、以下のア・イの単元において原則的に設定する。その他の単元でも、「つなぐ」段階を設定することが、研究主題の実現に向けて効果的な場合は、授業時間数に配慮しながら設定する。また、「つなぐ」段階が設定されない単元においても、単に調べて分かったことのまとめに終わるのではなく、「まとめる」段階で、社会生活とのつながりを意識できる終末となるよう工夫していく。

学年	ア「(多角的に考えて)～の発展について考えることができるように配慮する」単元	イ「自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるように配慮する」単元	ウ左のような記述がない場合には可能な限り次のような学習を想定
3年	(4) 市の移り変わり イの(ア)	(3) 地域の安全を守る働き イの(ア)	※「つなぐ」段階を設定せず、「まとめる」段階の終了までに、学んだことを「社会とのつながり」が意識できるまとめの学習を行う。
4年	※設定なし	(2) 人々の健康や生活環境を支える事業 イの(イ) (3) 自然災害から安全を守る活動 イの(ア) (4) 県内の伝統や文化 イの(ア)	●学んだことの価値やよさを家庭や地域、関係機関等に発信して社会とつながる。
5年	(2) 我が国の食料生産 イの(ア)と(イ) (3) 我が国の工業生産 イの(ア)と(イ) (4) 情報を活用して発展する産業 アの(イ)及びイの(イ)	(5) 我が国の国土自然環境と国民生活 イの(イ)と(ウ)	●社会生活との関連について意識し、日常生活とつながる。
6年	(2) 我が国の歴史上の主な事象 イの(ア) ※歴史を学ぶ意味を考える事項として	(2) 我が国の政治の働き(日本国憲法) イの(ア) (3) グローバル化する世界と日本の役割 イ	●学習したことが他の事例につながる(当てはめ理解を深める)。 ●学んだことが次の単元の学習につながる。

3 「つなぐ」段階の学習は、どのようにつくられてきたのか？

平成 25 年度全国大会の研究成果の一つに「ふかめる」段階を取り入れた単元設計がある。都小社研では「ふかめる」段階を設定し、社会認識を深めたり社会参画の意識を高めたりする指導の工夫を行う授業設計について、その研究成果を全国に発信してきた。社会の未来に目を向けて、よりよい社会を形成する資質・能力を育成する学習につながる一方で、実践上の課題もあったことから、令和 27 年度から、学習指導要領の改訂を見据えて「いかす」段階に趣旨変更し、その後、「つながる」段階を経て、現在の「つなぐ」段階となった。

【平成 25 年度全国大会】 「ふかめる」段階の指導は、「まとめる」段階までで多角的に調べ考えてきたことを違った側面（異なる事例・異なる立場・新たな課題など）から見直したり、学んだことを活用して新たな問いを見出して追究したりする社会認識を深める側面と、社会的事象と自分との関連を意識して社会への関わり方を選択・判断したり、社会に見られる課題を把握して課題の解決に向けて考えて学習成果を学校外等の他者に発信していく参画意識を高める側面から実施した。しかし、研究主題に迫る成果をあげる一方、必要以上に「ふかめる」段階を設定するなど単元内容に応じた効果的な実践ができなくなっていった。

【平成 28～令和 2 年度】 「いかす」段階の指導は、内容の取扱いにある記述を踏まえた単元において、社会に見られる課題を把握し、「まとめる」段階までに学んだことをいかして、課題の解決について考えたり、自分との関連を意識して関わり方を選択・判断したりしたことを説明したり討論したりする学習として、実践研究に取り組み始めた。しかし、地域や産業の発展を考えたり、自分の関わり方を考えたりする学習段階としては、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の育成と評価の場面として一定の成果があったものの、当初の趣旨と異なる単元の実践へと拡大し、年間指導計画の時数面での齟齬が顕在化してしまった。

【令和 3 年度】 「つながる」段階での指導は、内容の取扱いに応じて、これからの市の発展について考えたり、我が国の産業などの発展について多角的に考えたりし、社会に見られる課題を把握して未来に目を向け、学んだことを活用して課題の解決について考えたり自分とのつながりを意識して関わり方を選択・判断したりしてよりよい社会を考える学習が求められている単元においてのみ時間を設けて実施した。しかし、「社会とつながり」は研究主題にある文言であるとともに、問題解決的な学習の最初の「つかむ」段階から「社会とのつながり」はあり、「つながる」という名称は、単元の最後のみ社会とつながる学習を設定するように捉えられししまう可能性があることから、名称変更の必要性が指摘されるようになった。

【令和 3～令和 5 年度】 「つなぐ」段階の指導は、「つながる」段階の趣旨—これからの市の発展について考えたり、我が国の産業などの発展について多角的に考えたりし、社会に見られる課題を把握して未来に目を向け、学んだことを活用して課題の解決について考えたり自分とのつながりを意識して関わり方を選択・判断したりしてよりよい社会を考える学習—と同じであるが、学んだことを未来に「つなぐ」ことをより重視し、内容の取扱いの記述がない内容を受けた単元においても、研究主題の実現に向けて「つなぐ」段階の設定が効果的な場合は、授業時間数に十分に配慮しながら適宜設定していくものと変更し現在にいたっている。

4 どのような問題解決の過程なのか？

都小社研では、これまでの都小社研の研究成果から下図のような学習過程を基本とし単元構成をしている。

「つなぐ」段階の授業づくり		
学習過程	想定される「問い」	
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象と出合う 学習問題をつかむ「問い」 疑問や問題意識をもつ 学習問題を設定する 解決の見通しをもつ 	社会や人とつながって追究する
しらべる	調べる「問い」 <ul style="list-style-type: none"> 学習計画に即して調べる 資料や方法を選んで調べる 他者と協働的に学ぶ 自分の学びを振り返る 	
まとめる	特色や意味を考える「問い」 <ul style="list-style-type: none"> 学習問題に対する結論付け 地域社会や国民生活の関連 社会の一員としての自覚 	
つなぐ	未来に目を向ける	

社会に見られる課題をつかむ「問い」
発展や関わり方を考える「問い」

私たちはどうすればよいか。

これからは何が大切なのか。

今は何を優先にすべきか。

言語活動の充実

根拠や理由を明確にして論理的に**説明する**。

他者の主張を踏まえて**議論する**。




5 どのような学習例があるのか？

＜「つなぐ」段階を設定し、関わり方を選択・判断する学習例＞

○第3学年 「青梅市のうつりかわり」発展について考える

「まとめる」段階までの認識

- ・人口が減ってきている。
- ・青梅駅前がだんだん寂しくなっている。
- ・子供は減って、お年寄りが増えている。

社会に見られる課題に気付く

人口がどんどん減ったら、学校も減ってしまうかもしれないね。まちが寂しくなると安全面も心配だね。

問い このままだと青梅市はどうなってしまうだろう

これから青梅市は、どのようになったらよいのだろう

豊かな自然をPRして、魅力を伝えていく。コミュニティバスを作るのはどうだろう。



○第4学年 「水はどこから」自分たちにできることを考える、選択・判断する

「まとめる」段階までの認識

安心・安全な水道水、協力してできたおいしい水、いつでも使える東京の水

社会に見られる課題に気付く

水不足になることもあるみたいだ。

問い もう、昔みたいに水不足など、水で困ることは起きないかな？

水を大切に使うために私たちはどのようなことができるだろう

学校の水道のところにポスターを作ってはってこう。



○第6学年 「世界の未来と日本の役割」自分たちにできることを考える、選択・判断する

「まとめる」段階までの認識

- ・国際連合は、世界の問題を解決するために大きな役割を果たしているね。
- ・日本も国際連合の一員として、活動に協力しているよ。

社会に見られる課題に気付く

問い 世界がこれから解決していかねばいけない問題はどのようなものがあるのだろう

優先的に取り組んでいきたいと思う目標を選んで、その理由も書いてみよう

私は、「2 飢餓をゼロに」を選びました。日本も戦後に支援してもらって、今のように豊かになりました。でも今は、食品ロスの問題など食べ物をむだにしまうことがあるので、食べ物を大切にしていかなければならないと思いました。




＜「つなぐ」段階は設定せず、「まとめる」段階までに社会生活とつながることを意識した学習例＞

○第4学年 「病とたたかった人々ー伊藤玄朴らと種痘所ー」

現在とつなぐ

- ・江戸の人々を天然痘から救う。
- ・困難な状況を乗り越えて種痘を普及する。

今も感染症から私たちを救うために頑張っている人たちがいるね。

○第4学年 「世界とつながる大田区」

自分の地域とつなぐ

- ・大田区は「国際都市宣言」をしていて、国際交流イベントを行っている。
- ・外国人も暮らしやすいまちづくりをしている。

自分たちの市は、外国人が暮らしやすいまちになっているのだろうか。どんな取組があるかを調べてみよう。

子供が主体的に学ぶにはどうしたらよいか？

1 「子供が主体的に学ぶ」とはどういうことか？

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善であり、中央教育審議会答申においては、

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点

と主体的な学びを説明している。また、社会科の目標では、学びに向かう力・人間性に関わって、

社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

と記述されている。これらを踏まえると、社会科における主体的な学びは次の4点に集約できる。

- 社会的事象に対する疑問をもち関心を高め、問題意識をもつこと。
- 学習問題を予想したり学習計画を立てたりして、追究・解決方法の見通しをもつこと。
- 学習したことを振り返り、自身の学びや変容を自覚したり、学習成果を吟味したり、新たな問いを見いだしたりすること。
- 学んだことを基に自らの生活を見つめたり社会生活に向けて生かしたりすること。

これらを踏まえて、都小社研では主体的に学ぶ子供の姿とそのための手だてを下図のように整理した。

	社会科でイメージする主体的に学ぶ子供の姿	子供の主体的な学びを実現する教師の働きかけ
つ か む	①社会的事象との出会いから自分の疑問を見つけている。 「へえ〜」「えっ」「何で?」「どうして?」「気になる」「調べたい」 ②疑問をたくさん出し合って分類している。 「私はこれを知りたい」「たくさんあるな」「私と似ている」 ③学級の学習問題づくりの話し合いに参加している。 「学習問題について調べれば、自分の疑問も解決できそう」 ④学習問題の予想を話し合って追究の見通しや意欲を高めている。 「たぶん〜を調べると〜が分かるよ」「調べ方は〜がいいと思うな」	①資料や教材を通して、驚きや興味・関心を高められる社会的事象との出会いを設定する。 「この後どうなるかな?」「〇〇をもっと見てみたい。」 ②一人一人の疑問を大切に、子供の眩きを見逃さない。 「どうしてそう思ったの?」「もう一度!」「つまり?」 ③見方・考え方に着目して学習問題を見いだせるようにする。 「みんなの疑問を解決するには、どんな学習問題にするといひかな?」 ④学習の見通しをもつために学習問題に対する予想を話し合い、磨き上げられるようにする。 「何をどのように調べるか。」「どうやって学習していくか。」
し ら べ る	⑤調べることや立場を選んで決めて見通しをもって調べている。 「私は〜から調べる。次に〜を調べる」「私は〜の立場を調べる」 ⑥調べる資料や方法を決めて教室でも家庭でもすすんで調べている。 「いい資料を見つけた」「別の方法で調べてみよう」「家で調べたい」 ⑦友達や外部人材にどんどん質問している。 「どうやって見つけたの?」「どうしてそう思うの?」 「たくさん聞いてみよう!」 ⑧調べたことを友達に伝え、友達のよい考えを取り入れている。 「〜がわかった」「〜の立場で調べた」「それいいね」「わたしと同じだ」 ⑨学習の状況(学習問題・学習計画・調べたこと)を振り返っている。 「これはまだ調べてない」「違う方法はどうか」「もう解決できるかも」	⑤計画と照らし合わせ、学習をすすめる場面を設定する。 「友達と協力して解決しよう。」「〇〇について詳しくなろう。」「どんな立場で考えていく?」 ⑥ICTや教科書など、資料選択をできるように指導していく。 「何を使って調べる?」「それで解決できるかな?」 ⑦学び方の一つとして「質問」や「インタビュー」といった「ひと」に聴く方法を定着させる。 「分からないことを聞いてみよう!」 ⑧日常の中で、認め合うことの大切さや多角的に学びを捉えるために友達との交流を大切にする。 「なるほど。」「うんうん。」「その視点があったのか!」 ⑨学習内容や学習方法について、毎時間振り返る視点を明確にして振り返るようにする。 「何を学びましたか?」「どのように学びましたか?」 「調べ足りないものはありますか?」
ま と め る	⑩調べて分かったことを振り返り、学習問題についての考えを書いている。 「うまくまとめられた」「つまり〜が大切ということ」「〜だと思ふ。だって〜」 ⑪友達と自分の考えを比べたりつなげたりして学習問題を考え合っている。 「〜さんの意見には納得」「やっぱりこっちが大切では」「〜って大事なんだ」	⑩比較・関連付けて学習問題の結論を考える時間を設ける。 「今日調べたり話し合ったりしたことをまとめよう。」 ⑪異なる立場から意見交換できる場を設定する。 「友達の考えで大切だと思った部分は?」

つなぐ	<p>⑫(まとめの活動を通して) 社会に見られる課題に対して関心や問題意識をもっている。 「～なのに、なぜ～なのか」「こんなことになっていった、何とか変えないよ」</p> <p>⑬立場を明確にしたり自分と関連付けたりして考えたことを熱く伝えている。 「～さんの取組なら協力できる」「～さんを応援したい」「こう変わってほしい」</p> <p>⑭自分にできないことがないか、さらに調べ行動しようとしている。 「～をするのは自分たちの責任」「私にも～はできる」 「自分は～からやってみる」</p>	<p>⑫社会に見られる課題がある事例を通して、既習事項と関連付け、新たな問題意識をもつことができるようにする。 「このままで〇〇を続けていくことはできるのかな？」</p> <p>⑬多角的に考える環境を設定したり、既習をいかして発展を考えたりすることができるようにする。 「みんなはどんな立場で関わることができるのかな？」</p> <p>⑭社会に見られる課題を自分ごととして捉え、自分たちにできることを話し合ったり議論したりする場を設ける。 「学んできたことを生かして、自分たちにできることはどんなことがあるのかな?」「どうしてそう思うのかな?」</p>
-----	---	--

2 「子供の主体的な学び」が生まれる教師の働きかけのポイントは何か？

中央教育審議会答申の中では、「主体的な学びについては、児童生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが必要である。そのためには、単元などを通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童生徒の表現を促すようにするなどが重要である」とまとめられている。また、「児童生徒の学習評価の在り方について」（報告）の中でも、「主体的・対話的で深い学び」からの授業改善の視点として、自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面の設定、他者と協働して自らの考えを相対化する場面の設定の3点が挙げられている。

社会科における主体的な学びを引き出す教師の役割は右の5点に集約できると考える。

- ①子供が問題意識をもち追究の意欲を高める教材の工夫
- ②内容や方法を選択し追究・思考する場面の設定
- ③他者と協働して考えを深める場面の設定
- ④子供が自己の理解の状況などを振り返る発問の工夫
- ⑤見通しと振り返りを記述し、共有する場面の設定

3 「子供の主体的な学び」が実現している学習場面例（3年「わたしたちのくらしと商店の仕事」）

＜教材との出会いから問いを見いだしたり、予想の整理から追究の見通しを立てたり、ICTを活用して資料を選択したりすることを通じて、主体的な学びに迫る事例＞

【学習問題】 多くのお客さんを集めるために、スーパーマーケットの人はどのような作戦を立てているのだろう。

＜調べるための問い＞

- ・スーパーマーケットにはどのような作戦があるのだろう。
- ・どのような売り方の作戦があるのだろう。
- ・多くの人にきてもらうためにどのような作戦があるのだろう。
- ・自分たちが調べた作戦は、本当に合っているのだろうか。
- ・どのような仕入れの作戦があるのだろう。
- ・お客さんは店の人の作戦をどのように思っているのだろう。

スーパーマーケットの客数の多さに焦点化することで、なぜ多くの人が店に来るのかという問題意識を高められるようにした。

スーパーマーケットの販売の工夫を「店の作戦」として捉え、多くの客に来てもらうためにどのような作戦を立てているかという問いをもてるようにした。



調べる視点が明確になるような事前指導
・予想を分類して調べる視点を整理する
＜品物＞＜店の様子＞＜働く人＞＜その他＞



予想を整理して、子供の思考に即した追究・解決方法の見通しをもった。

タブレットを使って、子供が、店の仕事や店で働く人・客の話の動画などを調べられるようにすることで、主体的に問いを追究する姿が見られた。

子供が対話的に学ぶにはどうしたらよいか？

1 「対話的に学ぶ」とはどのようなことか？

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善であり、中央教育審議会答申においては、

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点

と対話的な学びのポイントを説明している。

2 子供の対話的な学びが実現するために大切なことは何か？

社会科における対話的な学びは、主に「説明」「話し合い」「討論」などの言語活動によって成立する。

1対1の対話

グループ話し合い

学級での話し合い

「発言(説明)」とは？

「事柄の内容や意味をよく分かるように解き明かすこと」

- ① 単語で終わらせない。主語と述語で構成した文で説明する。
- ② 資料などで根拠や理由を示して説明する。
- ③ 事実と自分の考えを分けて説明する。
- ④ 具体例をあげたり、まとめたりして説明する。

「話し合い」とは？

「理解を深めたり問題を解決したりするために説明し合うこと」

- ① 他の子供の意見を聞き、一度受け止める。
- ② 他の子供の意見と比較したり関連付けたりして自分の立場を明確にする。
- ③ 他の子供と自分の意見や考えをつなぎ、力を合わせて問題を解決する。
- ④ 具体例をあげたり、まとめたりして説明する。

「討論」とは？

「説明し合うだけでなく、議論をかわすこと」

- ① 論題や判断根拠が必要となり、討論の目的と判断根拠の理解が不可欠。
- ② 論題は対立軸があるものがよいが、視野を理解を深めたりするためのもの。

これらの言語活動を充実させるための教師の役割は次の5点に集約できると考える。

- 交流を通して思考を広げるための問いを焦点化させる。 ○ 子供の思考を交流させる活動を設定する。
- 子供が協働して学習問題を解決する学習展開や活動を設定する。
- 実社会の人に質問して調べたり考えたりする活動を設定する。
- 話し合いを通して、子供同士、教師や子供、現実社会の人々をつなげるスキルを身に付ける指導を継続する。

3 「子供の対話的な学び」が実現している学習場面例（3年「火事からくらしを守る」）

＜実社会の人に質問し、人とつながるスキルを身に付けることを通じて、対話的な学びに迫る事例＞

消防署の見学、区の防災課の方との出会いを通して学びを深めていった。



- ・ 火事が起きた時、現場に素早く着くために何をしていますか？
- ・ 防災課の人が、どうして小学校の消防設備の点検に来ているのですか？



- ・ あんなに重い服を着て1分以内に出場するなんて、よく訓練している。
- ・ 消防署の人は24時間いつでも出動できる準備をしているからすごい。
- ・ 火事にそなえるための決まりがあったんだね。



話をうかがう人の行動を想定しながら事前に質問事項を整理することで、相手を意識した調べ活動を行うことができた。

深い学びを実現するにはどうしたらよいか？

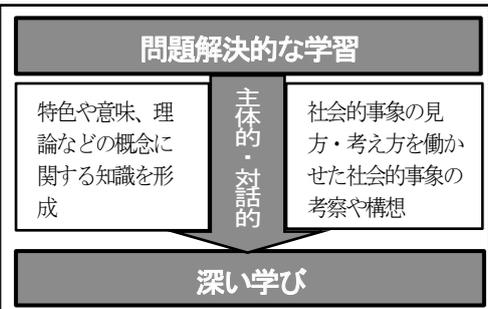
1 「深い学び」とはどのような学びなのか？

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善であり、中央教育審議会答申においては、

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点

と深い学びの視点を説明している。これを踏まえると、社会科における深い学びは次の3点に集約できる。

- 問題解決的な学習の過程を通して深い学びを実現すること。
- 事実に関する知識のみならず、それらを相互に関連付けて、特色や意味、理論など汎用的な概念に関する知識を形成すること。
- 社会的事象の見方・考え方を働かせた社会的事象の考察や構想、説明や議論を通して考えや理解を深めること。



2 「深い学び」の実現に向けた教師の働きかけのポイントは何か？

深い学びとは、社会科及び単元の目標が実現されることである。小学校学習指導要領解説社会科編を基に整理すると、次のように捉えることができる。

- 子供の実態や教材の特性を考慮して学習過程を工夫すること。
- 子供が社会的事象の見方・考え方を働かせ、主として用語・語句などを含めた具体的な事実に関する知識を習得することにとどまらず、それらを踏まえて社会的事象の特色や意味など社会の中で使うことのできる応用性や汎用性のある概念などに関する知識を獲得するよう問題解決的な学習を展開すること。
- 学んだことを生活や社会に向けて活用する場面では、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断することなどの活動を重視すること。

それ以外にも、例えば、

- 追究の視点やそれを生かした問いの構成と諸資料などを基にして多角的に考察する活動を重視すること。
- 社会に見られる課題の解決に向けた広い視野から構想（選択・判断）する活動を重視すること。
- 根拠を明確にして論理的に説明したり、合意形成や社会参画を視野に議論したりする活動を重視すること。

などが考えられる。

3 「深い学び」が実現している学習場面例（6年「わたしたちの暮らしを支える政治」）

<見方・考え方を働かせて社会的事象の意味を考え、深い学びに迫る事例> 「まとめる」段階（8/8時間）

なぜ、区民1%の人に役立つ政策をしているのだろうか？

ねりっこクラブは区民1%の願いに基づく

政治によって区民の願いを実現するには、どのようなことが必要なのだろう。

たとえ1%の人の願いでも、必要な願いは実現させる。

議会や役所は、区民の願いを聞き、優先順位を考えて実現させている。

政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算、市民の願いなどに着目して、子供が相互関係的な視点を働かせて、政治全体に見られる課題について考えられるようにした。

学習評価の意義は何か？評価規準をどのように設定するか？

1 学習評価の意義は何か？

学習評価は、学校における教育活動に関し、子供の学習状況を評価するものである。小学校学習指導要領総則には、学習評価の充実について新項目が置かれ、

- ・子供のよい視点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること
- ・各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること

の2点が示された。「子供にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、子供自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、学習評価の在り方が極めて重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められている。つまり、学習評価には、子供の学習状況を的確に捉えて評価することにより、「**子供の学習改善**」につながるよう側面と「**教師の指導改善**」につながるよう側面の2つの意義がある。

2 単元の目標と評価規準をどのように設定するのか？ 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を参照

単元の目標については、基本的には、学習指導要領に示された内容のまとまりに基づいて単元設計していくことから、以下のように学習指導要領に示された目標と内容の記述内容を学びのプロセスに即して文章化する。

(1) Aについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のような知識や技能を身に付けること

(ア) Bを理解すること ※内容が複数になることもある

(イ) Cなどについて調べ、Dなどにまとめること

イ 次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること

(ア) Eなどに着目して、Fを捉え、Gを考え、表現すること ※内容が複数になることもある

例えば、上の記述を基に、「Eなどに着目して、Cなどについて調べて、Dなどにまとめ、Fを捉え、Gを考え、表現することを通して、Bを理解することができるようにする」という知識や技能、思考力、判断力、表現力に関わる目標を設定することができる。また、学びに向かう力・人間性等については、例えば、第3学年の場合、下述の学年の目標の内容(3)を基に、

目標(3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

「主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う」という目標を設定する。さらに、内容の取扱いの配慮事項に応じて「つなぐ」段階を特設する場合に、「～の発展について考えようとする態度を養う」ことや「～など、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりしようとする態度を養う」ことを追記する。

単元の目標の実現状況を評価し、指導に生かしていくことができるよう、上記の学習指導要領の内容及び学年目標、内容の取扱い、学習指導要領解説の記載事項を参考に、観点別評価規準を以下の手順で作成していく。

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①Eなどについて、Cなどで調べ、必要な情報を集め、読み取り、Fを理解している。 ②調べたことをDや文などにまとめ、Bを理解している。	①Eなどに着目して、問いを見だし、Fについて考え表現している。 ②○と○を比較(または関連付け・総合など)してGを考えたり、 <u>学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、表現している。</u> ※②の後半の部分は設定しないことがある。	①A(に関する事項)について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究して、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②よりよい社会を考え、 <u>学習したことを社会生活に生かそうとしている。</u> ※②の部分は設定しないことがある。

3 評価場面をどのように設定するのか？

単元の指導計画とともに、単元の評価計画も併せて作成する。その際、単元の学習過程に基づいて毎時のねらいに応じて、観点別評価規準に即して評価する場面及び評価につながる学習活動を具体的に設定していく。右表は単元における評価場面例である。

学習過程	評価観点例
つかむ	思・判・表① 態度①(知・技①)
しらべる	知・技① 思・判・表① 態度①
まとめる	思・判・表② 知・技②
つなぐ	(思・判・表②) 態度②

「知識・技能」をどのように評価するのか？

1 「知識・技能」の評価の考え方とは？

知識・技能については、「～を調べ、～まとめ、～理解している」などと知識と技能を関連付けて評価規準を作成する。社会科の学習を通して子供が獲得する知識とは、例えば、用語などはもとより資料などで調べて分かる社会的事象の様子についての具体的な知識と調べてまとめたものを基にして考えて分かる汎用性のある概念的な知識のことである。また、子供が身に付ける技能とは、具体的には、調査活動や諸資料の活用など手段を考えて問題解決に必要な社会的事象に関する情報を集める技能、集めた情報を「社会的事象の見方・考え方」を働かせて読み取る技能、読み取った情報を学習問題に即してまとめる技能などである。これらの学習状況について評価規準に基づいて評価する。

2 「知識・技能」の評価規準の設定の仕方とは？

知識・技能の評価規準は、次の2点から設定して学習過程に即して評価する。主な評価場面は右表の通りである。

知・技① 調べて、必要な情報を集め、読み取り、社会的事象の様子について具体的に理解している。

知・技② 調べたことを文などにまとめ、社会的事象の特色や意味などを理解している。

学習過程	評価観点例
つかむ	思・判・表① 態度① (知・技①)
しらべる	知・技① 思・判・表① 態度①
まとめる	思・判・表② 知・技②
つなぐ	(思・判・表②) 態度②

3 「知識・技能」は、どのように評価したらよいのか？

社会科の「知識・技能」の評価としては、知識と技能を関連付けて「～を調べ（～にまとめ）、～理解している」などと学習状況を捉えて評価することが大切である。学習状況を評価するためには評価材料が必要であり、観点に即した評価材料が残る学習活動を設定していかなければならない。

- ① 資料を読み取り、具体的に理解すること
 - 見学をしたりインタビューして聞き取り調査したりする活動
 - 見学メモ、見学カード、撮影動画のコメント、見学新聞などの記述内容
 - 資料を読み取り、分かったことを書き出したり発表したりする活動
 - 学習のめあてや問いに対して読み取った事実の記述、図などへの書き込みなどの記述内容
 - テストなどによる技能を発揮させて獲得した知識を再生した内容
 - テスト問題の正誤やテストの資料からの情報の取り出し結果
- ② 社会的事象の特色や意味を理解すること
 - 学習問題に対するまとめを書いたり説明したりすること
 - 関連図やマトリクス表、ベン図等に整理したことから考えて分かったことの記述内容
 - 調べたことを比較して、相違点や共通点、特色について説明した記述内容
 - 社会生活と関連付けて、意味や役割について考えて分かったことを説明した記述内容

4 どのようにして指導に生かしていくのか？

- 授業中に、一人一人の学習状況を把握し、授業時間内で努力を要する状況の子供に対する支援に生かす。
 - 発言や机間指導等を通して、個々の学習状況を把握し、その場での個別支援を行ったり、学級全体に補足説明をしたり、友達と確かめ合ったり教え合う時間を設けたりするなどの支援を行う。
- 授業後に、一人一人の学習状況を把握し、次時の授業における支援策や改善策を検討して指導に生かす。
 - 授業後に、授業のねらい（評価規準）に即して、個々の学習状況を把握し、ノートに個別の助言をしたり、授業の指導内容、資料や学習活動、学習展開などに改善を加えたりする。
- 知・技②の観点については、学習状況に応じて適切な指導を講じるとともに、最終的な学習状況の評価について記録に留め、単元の総括的評価の材料とする。

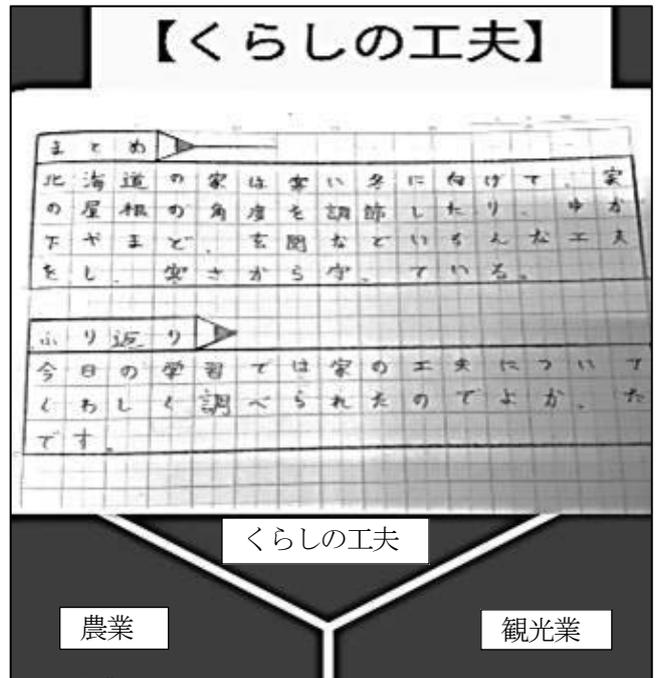
5 知識・技能の評価の実際

<知識・技能①の評価場面例>

評価方法

第5学年の単元「寒い土地の暮らし」の第2時（全5時間）において、北海道の「暮らしの工夫」について調べて分かったことをノートにまとめた。具体的知識を整理しやすいようノートの記述内容を写真に撮り、「Yチャート」に分類した。

- ①評価規準：必要な情報を集め、読み取り、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を理解している。【知—①】
- ②発問：「北海道の暮らしの工夫について分かったことは何だろう。」
- ③評価資料：ノート、Yチャート



ここでは、ノートの記述内容から、子供が資料を読み取り、北海道の冬の暮らしの工夫について、複数の観点から記述していることから「おおむね満足できる状況」(B)と判断できる。

<A児のノートの記述>

北海道の家では、寒い冬に向けて、家の屋根の角度を調節したり、床下や窓、玄関などいろいろな工夫をし(たりして)、寒さから守っている。

<知識・技能②の評価場面例>

評価方法

第5学年の単元「環境を守るわたしたち」の第6時（全9時間）において、学習したことを基に関連図を作成した。公害の防止や生活環境の改善について具体的な知識をつなげて獲得した概念的な知識の記述について評価した。

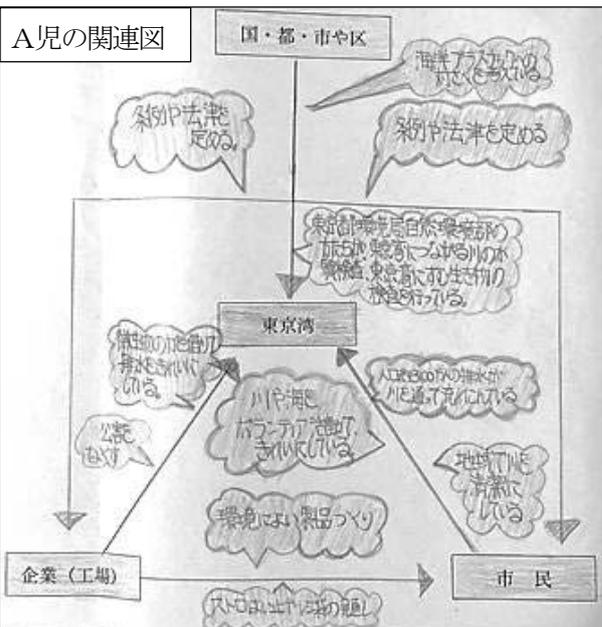
- ①評価規準：公害防止の取組と環境改善や人々の健康な生活を関連付けて、公害防止の取組の働きを多角的に考えて分かったことを表現している。
- ②発問：「東京湾に関わる人々はそれぞれどのように繋がっているだろう。」
- ③評価資料：(関連図、ノート)

<A児のノートの記述(関連図の説明)>

国・都・市や区が条例や法律を定め、企業は工夫して製品をつくり、よい環境を保とうとしている。市民一人一人がボランティア活動に参加し、未来のことを考えながら川や海をきれいにして努力している。

3つの立場について取組を記述している。

ここでは、関連図とノートの記述内容から、子供が関係機関の具体的な取組について記述し、国・都・市や区、企業(工業)、市民など、様々な立場で公害の防止と生活環境の改善に向けた努力について記述していることから、「おおむね満足できる状況」(B)と判断できる。



「思考・判断・表現」をどのように評価するのか？

1 「思考・判断・表現」の評価の考え方とは？

思考・判断・表現については、社会的事象の見方・考え方を働かせて資質・能力の育成を図る観点から、「～に着目して、問いを見いだし、～考え表現する」という「追究場面」における評価と、「～比較・関連付け、総合などして、～を考えたり、学習したことを基にして、選択・判断したりして表現する」という、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする「解決場面」における評価について、評価規準を作成して学習状況を評価する。

2 「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方とは？

思考・判断・表現の評価規準は、次の2点から設定して学習過程に即して評価する。評価場面例は右表の通りである。

思・判・表① 社会的事象に着目して、問いを見いだしたり、社会的事象の様子について考えたりしたことを表現している。

学習過程	評価観点例
つかむ	思・判・表① 態度① (知・技①)
しらべる	知・技① 思・判・表① 態度①
まとめる	思・判・表② 知・技②
つなぐ	(思・判・表②) 態度②

思・判・表② 比較・関連付け、総合などして社会的事象の特色や意味を考え、表現している。

学習したことを基に社会の発展や自らの関わり方を選択・判断したりして、表現している。

3 「思考・判断・表現」は、どのように評価したらよいのか？

「思考力・判断力・表現力」の評価としては、それらの能力そのものを評価するものではなく、子供が持っている思考力・判断力・表現力を発揮して学習に取り組んでいる状況を評価する必要がある。単元によっては「社会への関わり方を選択・判断する場面」が設定されていない場合も考えられるため、思考・判断・表現②は「考えたり、(中略) 選択・判断したり」と示していることに留意し、学習活動に応じて適切に文言を選びながら評価規準を設定していく。

＜主な評価方法例＞

- ① 社会的事象に着目して問いを見いだし、問いについて考えたことを表現すること
 - 社会的事象との出会いから生まれた疑問や問いを表現する活動
 - ノートや短冊・カード、タブレット端末に記述したり、話し合いで発表したりした疑問や問いの内容
 - 見学カードに書かれた見たいこと、聞きたいこと、もっと知りたいことの記述内容
 - 聞き取り調査活動をするときに考えた質問の内容
 - 社会的事象の様子や仕組みについて考えたことを表現する活動
 - 本時のめあてや問いについて考えたことをノートやワークシート、タブレット端末に記述した内容
 - 話し合いの中で自分の考えを理由や根拠を明確にして説明した内容
- ② 情報を比較、分類、総合、関連付けて、社会的事象の特色や意味について考えたことを表現すること
 - 比較したり分類したりすることで社会的事象の特色などを考えてノートや作品などに表現する活動
 - 社会生活と関連付けたり、総合したりして人々の働きや役割などを考えノートや作品に表現する活動
 - 思考ツールなどに情報を整理することで思考の流れを可視化して表現する活動
 - 上記の活動を通してノートやワークシート、図表、思考ツール、タブレット端末に記述した内容
- ③ 社会の発展を考えたり、社会の課題解決に向けた関わり方を選択・判断したりする活動
 - 立場を明確にしたり複数の立場から考えたりしたことを書いたり伝え合ったりする。
 - 社会の発展や自分の関わり方の選択・判断について、理由や根拠を明確にして説明する活動

4 どのようにして指導に生かしていくのか？

- 授業中に、一人一人の学習状況を把握し、授業時間内で努力を要する状況の子供に対する支援に生かす。
- 授業後に、一人一人の学習状況を把握し、次時の授業における支援策や改善策を検討して指導に生かす。
- 思・判・表②の観点については、学習状況に応じて適切な指導を講じるとともに、最終的な学習状況の評価について記録に留め、単元の総括的評価の材料とする。

5 思考・判断・表現の評価の実際

〈思考・判断・表現①の評価場面例〉

評価方法

第5学年の小単元「自動車をつくる工業」の第1時(全7時)において、自動車の注文票を作成したり、それを基に話し合ったりすることを通して、「疑問に思ったこと」や「調べたいこと」について考え表現したノートの内容を【思-①】で評価した。

①評価規準：製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術、自動車の生産に関わる人々の工夫や努力などに着目して、問いを見だし、表現している。【思-①】

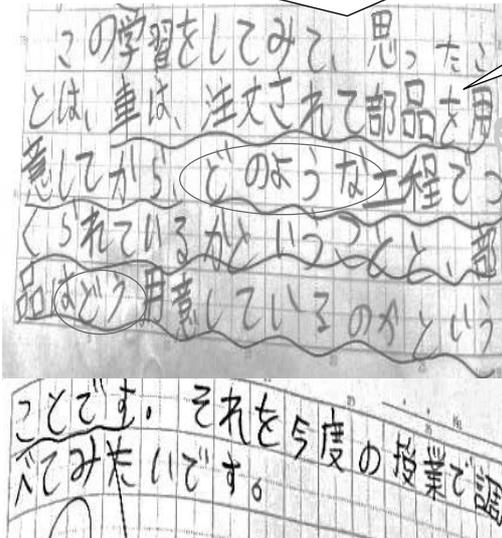
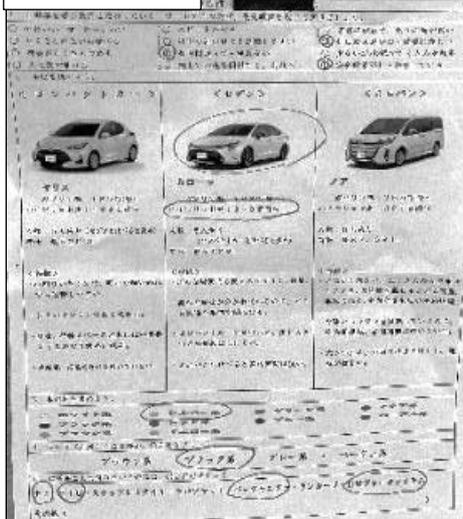
②発問：「作った注文票を基に話し合ってみて、疑問に思ったことや調べたいことは何だろう。」

③評価資料：ノート

製造の工程や工場相互の協力関係に着目している。

疑問から、問いを見いだそうとしている。

自動車注文票



子供は、「製造の工程や工場相互の協力関係に着目して、問いを見いだしている」と見取ることができるので、思考・判断・表現①は「おおむね満足できる状況」(B)と判断できる。

〈思考・判断・表現②の評価場面例〉

評価方法

第5学年の小単元「水害から暮らしを守る」の第12時(全12時)において、学習したことを基に縦軸に効果の大小、横軸に時間を示した四象限マトリクスを活用した話し合いを通して、水害から暮らしを守るために大切なことを表現したノートの記述を【思-②】で評価した。

①評価規準：学習したことを基に、水害から暮らしを守るために大切なことを考えようとしているか。【思-②】

②発問：「水害から暮らしを守るために大切なことは何だろう。」

③評価資料：(四象限マトリクス、ノート)

「十分満足できる」状況(A)評価した例

四象限マトリクス		(ききめ)大	
		水害から暮らしを守るために大切なことを考える。	水害から暮らしを守るために大切なことを考える。
効果の大小	ハザードマップを見る	防災グッズを収集する	水門をふさぐ
	避難場所を決める	ラジオや懐中電灯を準備する	水門をふさぐ
時間がかかる	水防壁を設置する	気象情報を確認する	水門をふさぐ
	水防壁を設置する	水害が起きた時に備える	水門をふさぐ
		(ききめ)小	

＜A児のノート＞
 水害から暮らしを守るために都や区、地いきの人が協力してきたけど、これからはゲリラ豪雨や台風で水害が起きる可能性が高いから、まず自分で水害に対する備えをしておくことが大切だと思う。なぜなら、すぐにできるし効果も高いから。
 さらに、区が情報をたくさん発信してくれているから、ハザードマップを見て危険な場所を確認したり、安心安全メールを見たりしておくことも大切だと思う。他にも、同じマンションに住んでいる人たちで水防訓練に参加することも、いざとなった時に助け合うことができるので、水害から暮らしを守るために大切なことだと思う。

自助に触れている。
 公助に触れている。
 共助に触れている。

子供は「学んだことを活用し、共助や公助の視点も大切であることに触れている」と見取ることができるので、「おおむね満足できる状況」(B)と判断できる。さらに「東京都の水害に見られる社会の課題を捉えた上で自助が大切であることに触れている」と見取ることができるので「十分満足できる状況」(A)と判断した。

「主体的に学習に取り組む態度」をどのように評価するのか？

1 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の考え方とは？

主体的に学習に取り組む態度については、知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を身に付けることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面について、「主体的に学習に取り組む態度」として評価規準を作成して評価する。

2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定の仕方とは？

主体的に学習に取り組む態度の評価規準は、次の2点から設定して学習過程に即して評価する。評価場面例は右表の通りである。

学習過程	評価観点例
つかむ	思・判・表① 態度① (知・技①)
しらべる	知・技① 思・判・表① 態度①
まとめる	思・判・表② 知・技②
つなぐ	(思・判・表②) 態度②

態度① 学習問題の解決に向けて、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究・解決しようとしている。

態度② 学習したことを基に、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている。

3 「主体的に学習に取り組む態度」は、どのように評価したらよいのか？

(1) 主体的に学習に取り組む態度①の評価について

- 「予想や学習計画を立て」では、学習問題の追究・解決に向けて見通しをもとうとしている学習状況を捉えるようにする。
- 「学習を振り返ったり見直したりして」では、問題解決に向けて、自らの学習状況を確認したり、さらに調べたいことを考えようとしたりする学習状況を捉えるようにする。その際、単元によっては、「さらに調べたいことを考える場面」が設定されない場合も想定されるため、単元の学習活動に応じて適切に文言を選びながら評価規準を設定して評価していかなければならない。

<態度①の主な評価方法例>

- ① 予想や話し合ったことをもとに、学級やグループ、個人で学習計画を立案する活動
 - ノートなどに書いた学習計画（何を？どの順番で？どんな方法で？どうまとめる？）の具体性
 - 学習計画立案後の振り返りの記述における追究意欲や見通しに関わる内容
- ② 自らの学習状況を確認したりさらに調べたいことを考えようとしたりする活動
 - 学習問題や学習計画に基づいて、自分が調べたことで解決に進んでいるかを自己評価している記述内容
 - 振り返りにおいて新たな問いや調べる内容を見いだしたり、調べる資料や調べ方の改善や工夫を図ったりすることに関する記述内容

(2) 主体的に学習に取り組む態度②の評価について

- 「学習したことを社会生活に生かそうとする」では、それまでの学習成果を基に、生活の在り方やこれからの社会の発展について考えようとする学習状況を捉えるようにする。これは「社会的な態度」と捉えることができ、社会に見られる課題を把握して社会への関わり方を選択・判断したり、多角的に考えて社会の発展について自分の考えをまとめたりする学習場面で表出されることが多いと考えられるため、思考・判断・表現との関連性を踏まえて、社会的な態度に傾斜をかけて評価規準を設定することが大切である。
- その際、単元によっては「選択・判断する場面」や「発展について考える場面」が設定されない場合もあることに留意し、単元の学習活動に応じて評価規準の設定についての有無を含めて判断することが大切である。

<態度②の主な評価方法例>

- ① 未来に目を向け、市の発展や我が国の産業の発展について考えを表現する活動
 - 社会の課題に関心や危機感をもち、様々な立場からよりよい発展を考え願い、主張した内容や記述
 - 市の発展や我が国の産業の発展を支えている人の営みに共感して、協力できることを主張した内容や記述
- ② 社会に見られる課題の解決に向けて自分の関わり方を選択・判断し、表現する活動
 - 自分の立場や理由を明確にして考え、自分の関わり方を主張した内容や記述
 - 自分や社会生活の関連から課題解決の大切さを感じ、自分にできることを選択・判断した主張や記述
 - 学級で話し合ったり討論したりした後の振り返りの記述内容

G I G Aスクール構想に向けて、タブレット端末をどう活用するか？

1 G I G Aスクール構想の実現に向けたICT・タブレット端末の効果的な活用

ICTの効果的な活用については、中央教育審議会の「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」で次のように述べられている。

一人一台の端末環境を生かし、端末を日常的に活用することで、ICTの活用が特別なことではなく「当たり前」のこととなるようにするとともに、ICTにより現実の社会で行われているような方法で児童生徒も学ぶなど、学校教育を現代化することが必要である。児童生徒自身がICTを「文房具」として自由な発想で活用できるような環境を整え、授業をデザインすることが重要である。

(1) ICT活用の強み

教科等に共通するICT活用の特性や強みは、整理すると次の3点にまとめられる。

その1	多量で大量の情報の取扱いができ、容易な試行錯誤ができること	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネット検索による即時的な情報収集 ○表計算ソフトによるデータの整理・分析やグラフ・図表の作成 ○写真などを拡大して情報を細部まで見ることが可能
その2	時間的制約を超えた情報の蓄積、過程を可視化できること	<ul style="list-style-type: none"> ○写真・動画の撮影による情報の記録と保存による情報の蓄積が簡略化 ○保存した情報の繰り返しの再生・確認・加工が可能 ○学習過程を可視化することで個別の学習の振り返りにも活用 ○学習のつまずきや伸びについての教師の見取りなど「個に応じた指導」
その3	空間的制約を超えた相互かつ瞬時の情報の共有（双方向性）ができること	<ul style="list-style-type: none"> ○Web会議、ファイル共有による過程、他の学校・地域、海外との交流といった距離が離れた場所をつないだ学習 ○他者との意見共有、比較検討、合意形成やアイデアの創出、発表資料の協働作成が可能

(2) 個別最適な学びと協働的な学び

前述の中央教育審議会の「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」の中で、ICT活用とあわせて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」について次のように説明している。

学習者視点から整理 ↓ 個別最適な学び	教師視点から整理 ↓ 個別最適な学び	<p>指導の個別化</p> <p>○全ての子どもに基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子どもにより重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」が必要である。</p> <p>学習の個性化</p> <p>○基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子どもの興味・関心・キャリア形成の方向性に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子ども一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」も必要である。</p> <p>○「学習の個性化」は個々の児童生徒の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げることを意味し、その中で児童生徒自身が自らどのような方向性で学習を進めていったら良いかを考えていくことなども含まれる。例えば、情報の探索、データの処理や視覚化、レポートの作成や情報発信といった活動にICTを効果的に使うことで、学びの質が高まり、深い学びにつながっていくことが期待される。また、児童生徒がこれまでの経験を振り返ったり、これからのキャリアを見通したりしながら、自ら適切に学習課題を設定し、取り組んでいけるよう、教師による指導を工夫していくことが重要である。</p>
協働的な学び		<p>○探究的な学習や体験活動などを通じ、子ども同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要である。</p> <p>○ICTの活用により、児童生徒一人一人が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動など、「協働的な学び」もまた発展させることができる。</p> <p>○ICTを利用して空間的・時間的制約を緩和することによって、遠隔地の専門家とつないだ授業や他の学校・地域や海外との交流など、今までできなかった学習活動も可能となる。</p>

実際の学校における授業づくりでは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素が組み合わさって実現されていくことが多い。例えば「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していくことが大切である。

2 社会科の学習において子供がどのようにタブレット端末を活用していくのか？

社会科におけるICT活用は、調べまとめる技能との関連性が高いと考えられる。「小学校学習指導要領解説 社会科編」の参考資料3として「社会的事象等について調べまとめる技能」の一覧が掲載されている。

この一覧表をタブレット端末の活用や社会科の情報活用における留意点を付け加えると下のような一覧表に整理することができる。

	技能の例	タブレット端末の活用例（○）や具体的な留意点（・）
情報 を 収 集 す る 技 能	【1】調査活動を通して情報収集 ○野外調査活動 ○社会調査活動	○調査の観点に基づいて、観察対象の事象について写真撮影や動画撮影を通して情報を集める。 ○聞き取り調査の際にメモの代わりに音声記録を行い、再生して内容を確認する。
	【2】諸資料を通して情報収集 ○資料の種類 ○その他	○インターネットを活用して目的に応じて、地図、年表、表やグラフなどの統計、新聞記事、各種写真や文書、動画などのデジタル資料を集める。 ○体験を動画撮影して記録に残す。
	【3】情報手段の特性や情報の正しさに留意して情報収集 ○信頼できる情報について読み取る	・資料の表題、出典、年代、作成者などを確認し、その信頼性を踏まえつつ情報を集める。 ・情報発信者の意図、発信過程などに留意して情報を集める。
情報 を 読 み 取 る 技 能	【1】情報全体の傾向性を踏まえて読み取る	・位置、分布、広がり、形状などの全体的な傾向を読み取る。 ・量、変化、区分、移動などの全体的な傾向を読み取る。
	【2】必要な情報を選んで読み取る ○事実を正確に読み取る ○有用な情報を選んで読み取る	・形状、色、下図、種類、大きさ、名称などの情報を読み取る。 ・地図から方位、記号、高さ、区分などの情報を読み取る。 ・年表から年号、時期、前後関係を読み取る。 ・課題解決につながる情報や目的に応じた情報を選別して読み取る。
	【3】複数の情報を見比べたり結び付けたりして読み取る	○異なる情報・資料・表現のデジタルデータを保存したり引き出したり並べたりして、見比べたり、結び付けたりして読み取る。
	【4】資料の特性に留意して	・地図の主題や情報の種類を踏まえて読み取る。 ・歴史資料の作成目的、作成時期、作成者を踏まえて読み取る。 ・統計等の単位や比率を踏まえて読み取る。
情報 を ま と め る 技 能	【1】基礎資料としてまとめる	○文字入力やメモにまとめ記録する。 ○地図上にドットでまとめる。 ○数量情報をグラフに変換する。
	【2】分類・整理してまとめる	○デジタル情報をタブレット端末上で分類・整理・保存する。 ・項目やカテゴリーで整理してまとめる。 ・順序や因果関係などで整理して年表にまとめる。 ・位置や方位、範囲などで整理して白地図上にまとめる。 ・相互関係を整理して図にまとめる。
	【3】情報を受け手に向けた分かりやすさに留意してまとめる。	○デジタル情報を統合・編集してまとめ、保存、配信する。 ・主題に沿って、効果的な形式で、レイアウトを工夫して、表などの数値で示された情報を地図等に変換してまとめる。

3 タブレット端末の具体的な活用事例

<3年生のタブレット端末活用事例> 「安全なくらし」(17時間扱い)

1/17時間目「わたしたちの安全なくらしを守るために、だれがどこでどのようなことをしているのだろう。」
 子供にとって、火災や交通事故等に遭遇する機会は減多になく、消防署や警察署の取組は自分事になっているとは言いがたい。そこで、「安全なくらし」のオリエンテーション的な位置付けとして、消防及び警察の小単元に入る前に、身の回りの危険について、町の絵地図を詳しく観察する活動を取り入れた。具体的には、タブレット端末を活用して、拡大(アップ)と縮小(ルーズ)の機能を活用した。

気付いたことをメモしよう

なぜおまわっている? いかがおまわっているのかおまわっている? テレビの人がおまわっている? しょうぼうしのおまわっている? しょうぼうしのおまわっている? しょうぼうしのおまわっている?

救急車は怪我した人を病院に運んでいる。
 消防車は家事の際に取り残された人をつまったり、火を消している。
 パトカーは交通安全を守ったり悪いことをした人をつかまえる。
 ヘリコプターは火事の現場で人を運ぶ。

俯瞰しての読み取り：タブレット上の資料を各自拡大等して、読み取ったことを書き込んでいく。

焦点化しての読み取り：タブレット上の資料を各自切り取って、絵と文を結び付けている。

資料を切り取ることで、だれ(救急車・消防車・パトカー等)がどこでどのようなことをしているのか具体的に表せるようにし、単元の学習問題へつなげられるようにしている。



学習問題づくり
 「・・・ために、だれがどこでどのようなことをしているのだろう。」

<4年生のタブレット端末の活用事例> 「届けよう命の水～玉川兄弟と玉川上水の開発～」(10時間扱い)

情報を受け手に向けた分かりやすさに留意してまとめる。
 9・10/10時間目「調べたことを紙芝居にまとめて、歴史博物館の人に見てもらおう。」
 玉川上水の開発について調べたことは紙芝居にまとめる。紙芝居は、時間の経過や開発のプロセスを物語風にする事で意欲的に表現活動に取り組むことができ、プレゼンテーションも作成しやすい活動である。

タブレット端末を活用して、グループで協力して、調べる際に集めた写真やイラスト等のデジタルデータを活用してレイアウトや見出しを工夫して分かりやすくパワーポイントでまとめた。



【教師がフォルダに入れた資料を活用して作成したプレゼンテーション】

玉川兄弟と玉川上水
 4はん
 玉川兄弟は、幕府から玉川上水を作るように依頼され、見事玉川上水を完成させ、玉川の名前をもらいました。ですが、その工事はとても大変で、夜もろう灯を照らして工事をしていました。
 玉川兄弟は兄の庄右衛門と弟の清右衛門で成り立っている
 庄右衛門は1662年から1695年まで、清右衛門は青年不明から1696年まで。
 玉川上水が完成する前は、江戸の町はたくさんの人々が集まって水不足になりかけていました。なので、人々はお金で買って、水を求めたのです。
 玉川上水の水が引かれ、農業ができるようになり、多くの人々が住むようになり、武蔵野台地のすがたは大きく変わりました。



作品は、見学をさせていただいた新宿区立歴史博物館に掲示していただき多くの方にも見てもらった。

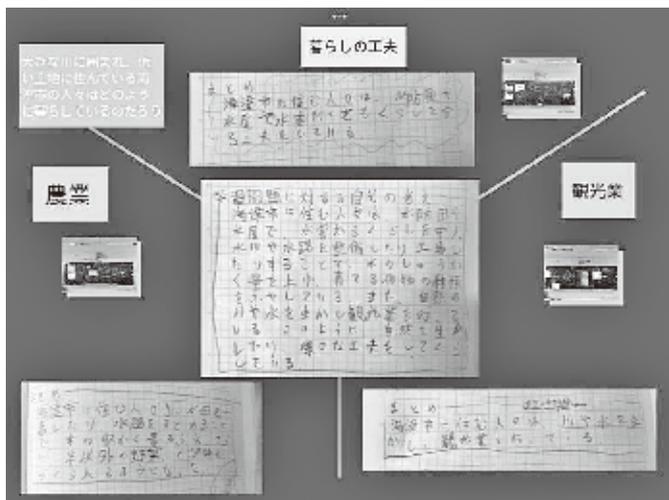
＜5年生のタブレット端末活用事例＞「低い土地の暮らし」（7時間扱い）

3/7時間目「海津町では、低い土地でくらすためにどのような工夫をしてきたのだろう。」

4/7時間目「海津町に住む人々は、どのように農業をしているのだろう。」

5/7時間目「海津町では、どのような観光や行事などを行っているのだろう。」

本小單元では、低い土地で暮らす人々が自然環境に適応して生活していることを調べ考え、理解することをねらっている。「しらべる」段階で、1時間ごとのまとめを1枚のYチャートに書きため、小單元として関連的に学習問題を解決できるようにした。具体的には、一人一人の子供が、タブレット端末に毎時のノートまとめを添付することで、学習問題の自らの考えを統一的に示せるようにするとともに、他の子供と情報共有できるようにした。



【タブレットを活用して作ったYチャート】

「しらべる」段階で、毎時の板書とノートのまとめを写真に撮り、Yチャートに貼り付けさせるようにした。完成したYチャートをデータで提出させ、回答共有ができるようにした。その後、友達にYチャートにコメントを送ったり、自分のYチャートに付け足したりした。

アプリ内にYチャートや調べた資料を蓄積していくことは、調べたことやまとめたことを検索することが容易となるだけでなく、次單元以降に既習事項と学びをつなげる際にも有効である。

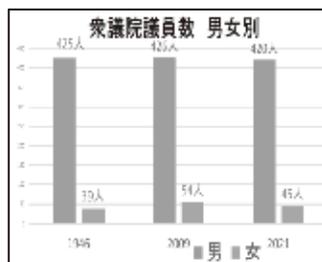
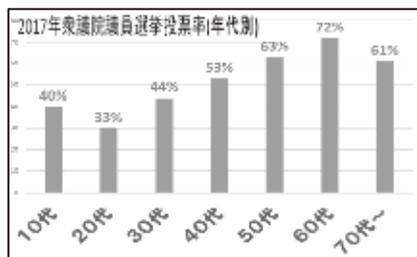
＜6年生のタブレット端末活用事例＞歴史「平和で豊かな暮らしを目指して」（8時間扱い）

8/8時間目「現在の日本には、どのような課題があるのだろう。」（少子高齢化、人口集中、選挙、環境汚染等）

本小單元は、既習の政治単元や歴史単元を振り返りながら、現在も残る我が国の課題を取り上げ、これからの日本の在り方を考え、未来をつくろうとする態度を養うことをねらっている。具体的には、選挙の課題について、タブレット端末で複数の情報を読み取り、それらを関連付けて自分の考えをもったり、友達と意見共有を図ったりした。

◆選挙には、どのような課題があるのだろう。

◆日本が大切にすべきことは何だろう。



歴史を学ぶことが大切だ。このままだと歴史（一部の国民にしか投票権がなかったこと）を繰り返してしまう。国民一人一人がもっと政治を真剣に考えることが大切だ。

投票する人は、若者よりも高齢者が多い。女性議員が少ないと、女性の意見が反映されない。一部の人の意見で国の政治が行われるようになる。政治や社会がうまくいかなくなる。

複数の資料から情報を読み取ったり、それぞれの考えをタブレット上で情報共有したりして、未来の展望についてアイデアを出し合った。

